様式第３号

事務事業評価表（平成31年度）

事業コード	1432	課コード	1604	会計種別	一般会計	予算の種類	□政策　■経常　□なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業		実施計画への位置づけ	○有　○無
		個別事業	てがたん		
	②部課名	生涯学習部・鳥の博物館			
	③事業主体	●市　○その他（　）		④対象地区	□我孫子　□天王台　□湖北　□新木　□布佐　■全市
	⑤事業期間	～		⑥担当職員数	2 人　（換算人数　0.2 人）
	⑦事業費（人件費含む）	総事業費	0 千円	当該(開始)年度	（当　初）1,881 千円　（うち人件費　1,760 千円） （変更後）千円　（うち人件費　千円）
	⑧施策の位置づけ	施策コード	11203	重点プロジェクトへの位置づけ	重点２
	基本計画地区別計画への位置づけ	●有　○無		部門別計画への位置づけ	（計画名）生涯学習推進計画
(2)目的	施策目的・展開方向	多くの人が手賀沼の魅力に気づき、その価値を認識してもらえるように、ジャパンバードフェスティバルやＥｎｊｏｙ手賀沼！、手賀沼花火大会などの手賀沼にかかわるイベントや手賀沼周辺の自然観察会、農業体験などを引き続き実施します。また、広報や市ウェブサイト、ＳＮＳ、パンフレットなどの活用やパブリシ		事業目的	水辺を通した体験学習、環境学習を通して、環境学習活動を担う人材を育成する。
(3)事業内容	内　容	鳥の博物館周辺の水田・畑地、斜面林、手賀沼と周辺のヨシ原を対象に定期的（毎月第二土曜日10:00～12:00）に行う自然観察会。身近な自然を季節ごとに気軽に観察できることをコンセプトとして実施。参加者には、事前パンフレットと事後のレポートを配布し、生き物の係わり合いについて理解を深めてもらう。楽しい雰囲気を保ちながら、鳥博市民スタッフそれぞれの持つキャリアや知識を最大限に活かすことができるようにコーディネートする。		当該年度執行計画	４◎　５◎　６◎　７◎　８◎　９◎　１０◎　１１◎　１２◎　１◎　２◎　３月◎
				当該年度活動結果指標	平均参加者数　単位：人　想定値 24　実績値 31

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該年度	探鳥会、自然観察会を通じ、環境への関心、興味を高め、環境学習を学んでもらう。	間接	平均事業参加人数	人	31	24
令和 2年度	探鳥会、自然観察会を通じ、環境への関心、興味を高め自主的な環境保全活動を展開してもらう。	間接	平均事業参加人数	人		25
令和 3年度	探鳥会、自然観察会を通じ、環境への関心、興味を高め自主的な環境保全活動を展開してもらう。	間接	平均事業参加人数	人		26
(7)事業実施上の課題と対応	博物館周辺の新しい自然の情報を提供するために、新しいテーマを取り入れながら計画する。	代替案検討	○有　●無			

(8)施行事項		平成30年度 内容	金額(千円)	平成31年度 内容	予算額(千円)	決算額(千円)	令和 2年度 内容	金額(千円)	令和 3年度 内容	金額(千円)
	実施内容 費　用	(経常) 市民スタッフ報償費	65	(経常) 市民スタッフ報償費	48	36	(経常) 市民スタッフ報償費	48	(経常) 市民スタッフ報償費	48
		消耗品費	40	消耗品費	38	38	消耗品費	38	消耗品費	38
		その他保険料	30	その他保険料	30	30	その他保険料	30	その他保険料	30
		手賀沼漁協遊漁料	5	手賀沼漁協遊漁料	5	5	手賀沼漁協遊漁料	5	手賀沼漁協遊漁料	5
	予算(決算)額	合　計	140	合　計	121	109	合　計	121	合　計	121
(9)財源内訳	国庫支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
	県支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
	起債	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0	0	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0
	一般財源		140		121	109		121		121
	その他の財源	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0
(10)人件費等	換算人数(人)		0.3		0.2	0.2		0.2		0.2
	正職員人件費		2,640		1,760	1,760		1,760		1,760
	嘱託職員報酬額		0		0	0		0		0
	臨時職員賃金額		0		0	0		0		0
事業費(予算(決算)額＋正職員人件費)			2,780		1,881	1,869		1,881		1,881
(11)単位費用（事業費／活動結果指標）		126.36千円／人		78.38千円／人		60.29				

２．事業の評価(DO+CHECK)

評価項目	事前評価	事後評価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））	改善検討
必要性 (1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	日本一汚濁されていた手賀沼の水質が改善され、多くの市民が環境保全の大切さを認識してきた今日、探鳥会、自然観察会をとおして体験型の環境学習を進めることで、より一層環境保全について関心と理解を深めてもらうことが必要である。	●①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞ 環境保全に対す関心や理解を深めてもらうことは引き続き重要であると考えられるため。	○要 ●不要
必要性 (2)市が実施する必要性はあるか？(市実施の必要性)	○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない (理由) □法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他 ＜その他の内容＞ ●②自治体である市が推進すべきである (理由) ■市が主導で進めることにより実効性が得られる □市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される □市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他 ＜その他の内容＞	□①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった ■②市が主導で進めなければ実効性がなかった ■③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した ■⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他 ＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞ 専門知識を持った職員による計画・実施により、普及活動の実効性が得られている。 ＜その他の内容＞	○要 ●不要
参加・協働の工夫 市民の参加や市民との協働を工夫しているか？(体制づくり)	参加・協働の内容： ○①事業計画時に市民の参画有り ●②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 工夫の具体的な内容：市民スタッフ、友の会と協働で事業を展開する。市民スタッフが主体となって観察会のプログラム作りやガイドを行なっている。 ＜その他の内容＞	実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容）：市民スタッフによる観察会の運営・補助 参加・協働の程度・内容： ○①当初期待した以上 ●②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞	○要 ●不要
環境への配慮 環境に配慮して事業を進めているか？	配慮の視点： ■①自然環境を生かしている □②生き物と共存している ■③手賀沼を意識している □④環境負荷低減に貢献している □⑤その他 取組む内容：博物館周辺の手賀沼遊歩道、水辺、田んぼなど、手賀沼周辺の環境の特性を活かした観察会を実施する。 ＜その他の内容＞	実施した具体的な内容：観察した動物をその場で放す、草木の伐採を行わないなど、手賀沼の自然環境への影響を与えないように実施した。 環境への配慮： ●①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞	○ 要 ● 不要
効率性 (1)目標設定は適切か？	現況値(a)(人)：31 目標値(b)(人)：24 目標値の妥当性のチェック： ■①客観的なデータ・事実に基づき設定している □②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である	達成状況：実績値(f)(人) 31／達成率(%)(f/b×100) 129.17 ●①目標値達成 ○②目標値未達成 ＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞ 丁寧な解説とフォローにより、多くのリピーターを獲得したこと。	○要 ●不要
効率性 (2)事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減：事業費(c)(千円) 1,881／事業費削減額(d)(千円) 899／事業費削減率(%) 32.34 実施予定の対策： □①国・県助成制度活用　□⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 ■②現有体制での対応　□⑥受益者負担 □③維持管理費の削減策の実施　□⑦その他 □④民間委託 ＜削減の内容＞	実施状況：実績値(g)(千円) 1,869／対事業費(%)(g/c)×100 99.36 ○①想定事業費未満 ●②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過 ＜超過理由等＞ 事業費の削減対策について： ●①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞	○要 ●不要
効率性 (3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？(目標対費用)	目標値対事業費(e)：1.28 人／費用単位 10万円 計算方法： ●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ○②複数年度の指標：(目標値－現況値)×費用単位／事業費	達成状況：実績値(h) 1.66／対目標値(%)(h/e)×100 129.69 ●①目標値以上 ○②目標値と同程度 ○③目標値以下 ＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞ 参加者数が目標値以上となったため。	○要 ●不要

３．事後評価

●現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

評価	評価コメント	改善策及び展開方向
	市民の環境学習に良い影響を与えているため、今後も引き続き実施していくことが望ましい。	

様式第３号

事務事業評価表（平成31年度）

事業コード	1433	課コード	1604	会計種別	一般会計	予算の種類	□政策　■経常　□なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業		実施計画への位置づけ	○有　●無
		個別事業	あびこ自然観察隊		
	②部課名	生涯学習部・鳥の博物館			
	③事業主体	●市　○その他（　）		④対象地区	□我孫子　□天王台　□湖北　□新木　□布佐　■全市
	⑤事業期間	～		⑥担当職員数	2 人　（換算人数　0.16 人）
	⑦事業費（人件費含む）	総事業費	0 千円	当該(開始)年度	（当　初）1,474 千円　（うち人件費　1,408 千円）
					（変更後）千円　（うち人件費　千円）
	⑧施策の位置づけ	施策コード	11203	重点プロジェクトへの位置づけ	重点２
	基本計画地区別計画への位置づけ	○有　●無	部門別計画への位置づけ	（計画名）	生涯学習推進計画
(2)目的	施策目的・展開方向	多くの人が手賀沼の魅力に気づき、その価値を認識してもらえるように、ジャパンバードフェスティバルやＥｎｊｏｙ手賀沼！、手賀沼花火大会などの手賀沼にかかわるイベントや手賀沼周辺の自然観察会、農業体験などを引き続き実施します。また、広報や市ウェブサイト、ＳＮＳ、パンフレットなどの活用やパブリシ		事業目的	水辺、台地、林など身近な自然環境を通した体験学習、環境学習を実施し，環境学習活動を担う人材を育成する。
(3)事業内容	内　容	我孫子らしい自然の残る場所を観察対象に選び、もっとも自然観察にふさわしい時期に行う年６回程度の観察会。「利根川河原の自然」、「谷津田の自然観察」、「晩秋の手賀川」」、「手賀沼の冬鳥観察」、「手賀沼のプランクトン」など毎年実施。鳥博市民スタッフのアイディアも最大限に活かすことができるように実施する。		当該年度執行計画	４　５　６　７　８　９　１０　１１　１２　１　２　３月 ◎　◎　◎　◎　◎　◎
				当該年度活動結果指標	平均参加者数　単位：人　想定値 24　実績値 18

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該年度	我孫子に特徴的な自然環境に興味をもってもらう。	間接	平均事業参加人数	人	18	24
令和 2年度	我孫子の自然環境に興味を持ってもらうとともに、生き物のかかわり合いへの理解を深めてもらう。	間接	平均事業参加人数	人		25
令和 3年度	我孫子の自然環境への興味と理解を深めることにより、さらに愛着が育まれるようになる。	間接	平均事業参加人数	人		26

(7)事業実施上の課題と対応		代替案検討	○有　●無

(8)施行事項	平成30年度		平成31年度			令和 2年度		令和 3年度	
	政策 内　容	金額(千円)	政策 内　容	予算額(千円)	決算額(千円)	政策 内　容	金額(千円)	政策 内　容	金額(千円)
実施内容	(経常) 市民スタッフ報償費 消耗品費 その他保険料	 16 40 10	(経常) 市民スタッフ報償費 消耗品費 その他保険料	 18 38 10	 16 38 10	(経常) 市民スタッフ報償費 消耗品費 その他保険料	 18 38 10	(経常) 市民スタッフ報償費 消耗品費 その他保険料	 18 38 10
費　用 予算(決算)額	合　計	66	合　計	66	64	合　計	66	合　計	66
(9)財源内訳 国庫支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
県支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
起債	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0	0	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0
一般財源		66		66	64		66		66
その他の財源	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0
(10)人件費等 換算人数(人)		0.21		0.16	0.16		0.16		0.16
正職員人件費		1,848		1,408	1,408		1,408		1,408
嘱託職員報酬額		0		0	0		0		0
臨時職員賃金額		0		0	0		0		0
事業費(予算(決算)額＋正職員人件費)		1,914		1,474	1,472		1,474		1,474
(11)単位費用（事業費／活動結果指標）		83.22千円／人		61.42千円／人	81.78				

２．事業の評価(DO+CHECK)

評価項目	事　前　評　価			事　後　評　価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））		改善検討
必要性 (1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	利根川と手賀沼にはさまれた我孫子には、台地上の市街地、斜面林、農耕地、水辺など多様な自然環境があり、都心に近い割には鳥相も豊である。しかし、こうした我孫子の自然の豊かさを体験を通じて実感している市民は少ない。特に屋外で遊ぶことが少なくなった小中学生にとっては、生き物とふれる機会が少なくなっている。岡発戸の谷津田や利根川など、我孫子を代表する自然環境をフィールドとした観察会は、我孫子の自然に対する愛着を育み、将来の社会を担う市民にとって重要な学習である。市民がスタッフとして協働で実施することで、より効果が期待できる。			●①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞ 市民に我孫子市の多様な環境について知っていただき、環境保全への関心や理解を深めてもらうことは引き続き重要であると考えられるため。		○要 ●不要
(2)市が実施する必要性はあるか？（市実施の必要性）	○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない （理由）□法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他	＜その他の内容＞		□①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった ■②市が主導で進めなければ実効性がなかった ■③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した ■⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他	＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞ 専門知識を持つ職員が計画・実施したことで、計画の実効性が得られた。	○要 ●不要
	●②自治体である市が推進すべきである （理由）■市が主導で進めることにより実効性が得られる □市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される □市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他	＜その他の内容＞		＜その他の内容＞		
参加・協働の工夫 市民の参加や市民との協働を工夫しているか？（体制づくり）	参加・協働の内容	工夫の具体的な内容		実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容）	参加・協働の程度・内容	○要 ●不要
	○①事業計画時に市民の参画有り ●②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他	市民スタッフ、友の会、との協働で事業を実施する。観察会のプログラム作成や下見もボランティアスタッフとの協働で実施する。		市民スタッフによる観察会の運営・補助	○①当初期待した以上 ●②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞	
	＜その他の内容＞					
環境への配慮 環境に配慮して事業を進めているか？	配慮の視点	取組む内容		実施した具体的な内容	環境への配慮	○ 要 ● 不要
	□①自然環境を生かしている □②生き物と共存している ■③手賀沼を意識している □④環境負荷低減に貢献している □⑤その他	手賀沼周辺の代表的な自然環境の中から、観察環境を選び、その特性を理解してもらえるような観察会を実施する。		自然環境に悪影響を与えないように観察会を実施した。	●①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞	
	＜その他の内容＞					

効率性								
(1)目標設定は適切か？	現況値(a)(人)	目標値(b)(人)	目標値の妥当性のチェック	達成状況		○①目標値達成 ●②目標値未達成		○要 ●不要
	18	24	□①客観的なデータ・事実に基づき設定している ■②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である	実績値(f)(人)	達成率(%)(f/b×100)	＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞ 12月の観察会が天候不良のため参加者のキャンセルが多かったため。また、参加人数の多い7月と3月の観察会が天候不良等により中止になったため。		
				18	75			
(2)事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減		実施予定の対策	実施状況		○①想定事業費未満 ●②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過	事業費の削減対策について	○要 ●不要
	事業費(c)(千円)	事業費削減額(d)(千円)	□①国・県助成制度活用　□⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 ■②現有体制での対応　□⑥受益者負担 □③維持管理費の削減策の実施　□⑦その他 □④民間委託	実績値(g)(千円)	対事業費(%)(g/c)×100		●①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞	
	1,474	440		1,472	99.86			
	事業費削減率(%)		＜削減の内容＞	＜超過理由等＞				
	22.99							
(3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？（目標対費用）	目標値対事業費(e)		計算方法	達成状況		○①目標値以上 ○②目標値と同程度 ●③目標値以下	＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞ 天候等の理由により参加者数が少なかったため。	○要 ●不要
	1.63	単位：人　費用単位：10万円	●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ○②複数年度の指標：(目標値－現況値)×費用単位／事業費	実績値(h)	対目標値(%)(h/e)×100			
				1.22	74.85			

３．事後評価

●現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

評価	評価コメント	改善策及び展開方向
	市民への環境保全のための普及啓発に一定の効果をもたらしており、今後も引き続き推進していく。	

様式第３号

事務事業評価表（平成31年度）

事業コード	1434	課コード	1604	会計種別	一般会計	予算の種類	□政策　■経常　□なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業		実施計画への位置づけ	○有　●無
		個別事業	ジャパンバードフェスティバル		
	②部課名	生涯学習部・鳥の博物館			
	③事業主体	●市　○その他（　）		④対象地区	□我孫子　□天王台　□湖北　□新木　□布佐　■全市
	⑤事業期間	～		⑥担当職員数	4 人　（換算人数　0.28 人）
	⑦事業費（人件費含む）	総事業費	3,117 千円	当該(開始)年度	（当　初）2,681 千円　（うち人件費　2,464 千円）
					（変更後）2,687 千円　（うち人件費　2,464 千円）
	⑧施策の位置づけ	施策コード	11203	重点プロジェクトへの位置づけ	重点２
	基本計画地区別計画への位置づけ	○有　●無	部門別計画への位置づけ	（計画名）	
(2)目的	施策目的・展開方向	多くの人が手賀沼の魅力に気づき、その価値を認識してもらえるように、ジャパンバードフェスティバルやＥｎｊｏｙ手賀沼！、手賀沼花火大会などの手賀沼にかかわるイベントや手賀沼周辺の自然観察会、農業体験などを引き続き実施します。また、広報や市ウェブサイト、ＳＮＳ、パンフレットなどの活用やパブリシ		事業目的	ジャパンバードフェスティバルを開催し、環境保護を考える機会を提供するとともに、自然環境の大切さをアピールする。
(3)事業内容	内　容	鳥と環境保全をテーマに、研究所、学校、企業、行政などが組織する実行委員会が実施するイベント。11月の2日間、我孫子市内のおもに手賀沼周辺の会場を中心に、市民参加で行う。鳥の博物館は、実行委員として参加し、市が進める「人と鳥の共存するまちづくり」をアピールするための学術部門のイベントの鳥学講座を行う。また、事務局としての分担業務を担当する。		当該年度執行計画	4月　5月　6月　7月　8月　9月　10月　11月　12～3月 ・実行委員会：◎　◎　◎　◎　◎　◎　◎　◎　◎◎◎◎ ・ブース予約：◎ ・開設準備：◎　◎　◎ ・実　施：◎１１月上旬の２日間
				当該年度活動結果指標	参加団体数　単位：団体　想定値 162　実績値 189

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該年度	フェスティバルに関心を持ってもらい、多くの人に参加してもらう。また、事業に満足してもらう。	間接	参加団体数	団体	189	162
令和 2年度	フェスティバルに関心を持ってもらい、多くの人に参加してもらう。また、事業に満足してもらう。	間接	参加団体数	団体		164
令和 3年度	フェスティバルに関心を持ってもらい、多くの人に参加してもらう。また、事業に満足してもらう。	間接	参加団体数	団体		166

(7)事業実施上の課題と対応	代替案検討
鳥の博物館の活動と意義をアピールする絶好の機会であるが、事務局業務に人的コストがかかり、実行委員としての業務を十分に果たせていない。他部署との協力により事務局業務を軽減し、実行委員業務へ力点を置けるような体制を検討する。	○有　●無

(8)施行事項

	平成30年度		平成31年度			令和 2年度		令和 3年度	
	政策 内　容	金額(千円)	政策 内　容	予算額(千円)	決算額(千円)	政策 内　容	金額(千円)	政策 内　容	金額(千円)
実施内容 費　用	（経常）		（経常）			（経常）		（経常）	
	嘱託職員報酬	129	嘱託職員報酬	128	128	嘱託職員報酬	128	嘱託職員報酬	128
	嘱託職員社会保険料	16	嘱託職員社会保険料	25	19	嘱託職員社会保険料	19	嘱託職員社会保険料	19
	嘱託職員雇用保険	1	嘱託職員雇用保険	2	2	嘱託職員雇用保険	2	嘱託職員雇用保険	2
	嘱託職員費用弁償	5	嘱託職員費用弁償	5	5	嘱託職員費用弁償	5	嘱託職員費用弁償	5
	市民スタッフ報償費	5	市民スタッフ報償費	16	14	市民スタッフ報償費	16	市民スタッフ報償費	16
	臨時職員賃金	42	臨時職員賃金	42	42	臨時職員賃金	42	臨時職員賃金	42
	消耗品	5	消耗品	5	5	消耗品	5	消耗品	5
予算(決算)額	合　計	203	合　計	223	215	合　計	217	合　計	217
(9)財源内訳 国庫支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
県支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
起債	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0	0	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0
一般財源		203		223	215		217		217
その他の財源	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0
(10)人件費等 換算人数(人)	0.33		0.28		0.28	0.28		0.28	
正職員人件費	2,904		2,464		2,464	2,464		2,464	
嘱託職員報酬額	151		153		153	153		153	
臨時職員賃金額	42		42		42	42		42	
事業費(予算(決算)額＋正職員人件費)	3,107		2,687		2,679	2,681		2,681	
(11)単位費用（事業費／活動結果指標）	22.19千円／団体		16.59千円／団体		14.17				

２．事業の評価(DO+CHECK)

評価項目		事　前　評　価		事　後　評　価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））		改善検討
必要性	(1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	我孫子市は手賀沼や利根川、古利根沼などの水辺や台地上の農地、斜面林、低地の水田など、多様な自然環境から構成されている。この自然は市民に安らぎを与えるとともに生物の貴重な生息空間となっているが、宅地の進展により大幅に失われてきている。 現在多くの市民が自主的な環境保全活動展開しており、今後、このような活動に対しての支援が必要である。そのためにも、「人と鳥とが共存する豊かな生活を目指していくことを目的とする」ジャパンバードフェスティバルを開催し、環境保全の意識を多くの人々に啓発していきたい。		●①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞ JBFには全国から多数の参加があり、会場の一つでもある鳥の博物館も多くの来館者を迎えることが出来た。講座等を実施し、市民・参加者をつなぐ活動にも貢献できた。		○要 ●不要
	(2)市が実施する必要性はあるか？（市実施の必要性）	○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない （理由）□法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他	＜その他の内容＞	□①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった □②市が主導で進めなければ実効性がなかった ■③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した □⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他	＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞ 市が事務局となることで、全国の自治体の協力を得ることが出来、また、市民参加者と参加者の架け橋的役割を果たすことができる。	○要 ●不要
		●②自治体である市が推進すべきである （理由）■市が主導で進めることにより実効性が得られる □市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される □市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他	＜その他の内容＞	＜その他の内容＞		

参加・協働の工夫	参加・協働の内容	工夫の具体的な内容	実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容）	参加・協働の程度・内容	改善検討
市民の参加や市民との協働を工夫しているか？（体制づくり）	○①事業計画時に市民の参画有り ●②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 ＜その他の内容＞	多くのボランティアが事業に参画している。	多くのボランティアが参加している。	○①当初期待した以上 ●②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞	○要 ●不要

環境への配慮	配慮の視点	取組む内容	実施した具体的な内容	環境への配慮	改善検討
環境に配慮して事業を進めているか？	■①自然環境を生かしている □②生き物と共存している □③手賀沼を意識している □④環境負荷低減に貢献している □⑤その他 ＜その他の内容＞	手賀沼周辺を舞台にイベントを開催している。	イベント会場は、手賀沼のほとりにあり、参加者に我孫子の自然を感じてもらうことが出来る。	●①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞	○ 要 ● 不要

効率性

(1)目標設定は適切か？	現況値(a)(団体) 189	目標値(b)(団体) 162	目標値の妥当性のチェック □①客観的なデータ・事実に基づき設定している ■②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である	達成状況 実績値(f)(団体) 189	達成率(%)(f/b×100) 116.67	●①目標値達成 ○②目標値未達成 ＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞ ＪＢＦの認知度が高まった為		○要 ●不要
(2)事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減 事業費(c)(千円) 2,687	事業費削減額(d)(千円) 420	実施予定の対策 □①国・県助成制度活用　□⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 ■②現有体制での対応　□⑥受益者負担 □③維持管理費の削減策の実施　□⑦その他 □④民間委託	実施状況 実績値(g)(千円) 2,679	対事業費(%)(g/c)×100 99.7	○①想定事業費未満 ●②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過	事業費の削減対策について ●①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞	○要 ●不要
	事業費削減率(%) 13.52		＜削減の内容＞	＜超過理由等＞				
(3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？（目標対費用）	目標値対事業費(e) 6.03 単位：団体	費用単位 10万円	計算方法 ●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ○②複数年度の指標：(目標値－現況値)×費用単位／事業費	達成状況 実績値(h) 7.05	対目標値(%)(h/e)×100 116.92	●①目標値以上 ○②目標値と同程度 ○③目標値以下	＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞ ＪＢＦの認知度が高まった為	○要 ●不要

３．事後評価

●現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

評価	評価コメント	改善策及び展開方向
	事業を実施していく中で、我孫子市の自然や手賀沼の魅力、鳥の博物館を全国に発信してくためにも必要な事業であることから、今後も現状通りに推進していく。	

様式第３号

事務事業評価表（平成31年度）

事業コード	1435	課コード	1604	会計種別	一般会計	予算の種類	□政策　■経常　□なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業		実施計画への位置づけ	●有　○無
		個別事業	室内啓発イベント		
	②部課名	生涯学習部・鳥の博物館			
	③事業主体	●市　○その他（　）		④対象地区	□我孫子　□天王台　□湖北　□新木　□布佐　■全市
	⑤事業期間	～		⑥担当職員数	2 人　（換算人数　0.1 人）
	⑦事業費（人件費含む）	総事業費	0 千円	当該(開始)年度	（当　初）3,766 千円　（うち人件費　880 千円）
					（変更後）3,862 千円　（うち人件費　880 千円）
	⑧施策の位置づけ	施策コード	11203	重点プロジェクトへの位置づけ	重点２
	基本計画地区別計画への位置づけ	●有　○無	部門別計画への位置づけ	（計画名）	生涯学習推進計画
(2)目的	施策目的・展開方向	多くの人が手賀沼の魅力に気づき、その価値を認識してもらえるように、ジャパンバードフェスティバルやＥｎｊｏｙ手賀沼！、手賀沼花火大会などの手賀沼にかかわるイベントや手賀沼周辺の自然観察会、農業体験などを引き続き実施します。また、広報や市ウェブサイト、ＳＮＳ、パンフレットなどの活用やパブリシ		事業目的	博物館学芸員、市民スタッフの指導で簡単な工作や実験を行い、子供の創造性を啓発する。また、鳥類の研究者と一般市民が出会う機会を設け、自然を科学的な目で観察することへの関心を高める。
(3)事業内容	内　容	身近な自然を科学的に理解することができるように、その導入として自然素材を使った工作や簡単な科学実験を行い関心を高める。バードコール、鳥笛、鳥グライダーなど楽しいテーマで展開。夏休期間中は、集中的に実施。鳥博市民スタッフのアイディアも最大限に活用する。そのほかテーマトークとして、第一線で活躍する鳥類研究者（山階鳥類研究所研究員）による話題提供の後、参加者との質疑応答を行う。		当該年度執行計画	フロアスタッフイベント：年２回、Enjoy　手賀沼！開催日の室内イベント、夏の遊びと研究大集合：８月の夏休み期間中の土日、鳥に関する自由研究の展示及び自由研究相談、講演会の開催：夏休み期間中、JBF期間の講座・室内イベント、テーマトーク：毎月、鳥博セミナー：年１回、
				当該年度活動結果指標	全イベント参加者数／年　単位：人　想定値 1,400　実績値 1,588

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該年度	工作体験や講座を通じて、身近な自然へ興味を持つきっかけを提供する。	直接	事業参加人数	人	1,588	1,400
令和 2年度	工作体験や講座を通じて、身近な自然へ興味を持ち、さらにそのしくみを理解できるような情報を提供する。	直接	事業参加人数	人		1,500
令和 3年度	工作体験や講座を通じて、身近な自然へ興味を持ち、理解し、その情報を広く伝えたくなるような情報提供をする。	直接	事業参加人数	人		1,600

(7)事業実施上の課題と対応	参加人数の増加とともに、実施スペースの確保が難しい。他施設との連携も検討する。	代替案検討	○有　●無

(8)施行事項

	平成30年度		平成31年度			令和 2年度		令和 3年度	
	政策 内　容	金額(千円)	政策 内　容	予算額(千円)	決算額(千円)	政策 内　容	金額(千円)	政策 内　容	金額(千円)
実施内容 費　用	（経常）		（経常）			（経常）		（経常）	
	嘱託職員報酬	2,180	嘱託職員報酬	2,180	2,180	嘱託職員報酬	2,180	嘱託職員報酬	2,180
	嘱託職員社会保険料	276	嘱託職員社会保険料	425	316	嘱託職員社会保険料	332	嘱託職員社会保険料	332
	嘱託職員雇用保険料	24	嘱託職員雇用保険料	33	27	嘱託職員雇用保険料	26	嘱託職員雇用保険料	26
	嘱託職員費用弁償	86	嘱託職員費用弁償	85	84	嘱託職員費用弁償	89	嘱託職員費用弁償	89
	講師報償費	60	講師報償費	72	72	講師報償費	72	講師報償費	72
	市民スタッフ報償費	41	市民スタッフ報償費	39	27	市民スタッフ報償費	39	市民スタッフ報償費	39
	消耗品	150	消耗品	148	148	消耗品	148	消耗品	148
予算(決算)額	合　計	2,817	合　計	2,982	2,854	合　計	2,886	合　計	2,886
(9)財源内訳 国庫支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
県支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
起債	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0	0	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0
一般財源		2,817		2,982	2,854		2,886		2,886
その他の財源	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0
(10)人件費等 換算人数(人)	0.1		0.1		0.1	0.1		0.1	
正職員人件費	880		880		880	880		880	
嘱託職員報酬額	2,566		2,603		2,603	2,603		2,603	
臨時職員賃金額	0		0		0	0		0	
事業費(予算(決算)額＋正職員人件費)	3,697		3,862		3,734	3,766		3,766	
(11)単位費用（事業費／活動結果指標）	3.8千円／人		2.76千円／人		2.35				

２．事業の評価(DO+CHECK)

評価項目	事　前　評　価	事　後　評　価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））	改善検討
必要性 (1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	次世代をになう幼児や小中学生が、地域の自然への愛着を深めるために鳥の博物館をより効果的に活用するためには、そのきっかけとして、工作や実験などを通じた館内での楽しい体験が欠かせないため。また、科学離れが叫ばれる昨今、若い世代に研究の楽しさに気づいてもらう機会を作り出すため。さらに、市民と研究者がコミニュケーションする機会をつくり出すことが持続可能なくらしの知恵を育むことにつながるため。	●①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞ 多様な普及イベントへの参加を通じて、多くの市民に鳥を通じて科学に親しんでもらう機会を提供できたため。	○要 ●不要
(2)市が実施する必要性はあるか？（市実施の必要性）	○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない （理由）□法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他 ＜その他の内容＞ ●②自治体である市が推進すべきである （理由）■市が主導で進めることにより実効性が得られる □市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される □市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他 ＜その他の内容＞	□①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった □②市が主導で進めなければ実効性がなかった ■③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した □⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他 ＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞ 鳥の博物館が主体となることで、市民と科学をつなぐ役割を果たすことができたため。 ＜その他の内容＞	○要 ●不要
参加・協働の工夫 市民の参加や市民との協働を工夫しているか？（体制づくり）	参加・協働の内容：○①事業計画時に市民の参画有り ●②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 ＜その他の内容＞ 工夫の具体的な内容：市民スタッフとの協働で事業を実施する。	実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容）：多くの市民に参加いただき、イベントの運営に当たっては市民スタッフ等との協働を行った。 参加・協働の程度・内容：○①当初期待した以上 ●②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞	○要 ●不要
環境への配慮 環境に配慮して事業を進めているか？	配慮の視点：□①自然環境を生かしている □②生き物と共存している □③手賀沼を意識している ■④環境負荷低減に貢献している □⑤その他 ＜その他の内容＞ 取組む内容：自然の素材やリサイクル材料などを使用し、安全で簡単な工作を実施する。	実施した具体的な内容：工作イベントでは環境に配慮した素材を使用した。 環境への配慮：●①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞	○ 要 ● 不要

効率性

(1)目標設定は適切か？	現況値(a)(人) 1,588	目標値(b)(人) 1,400	目標値の妥当性のチェック：□①客観的なデータ・事実に基づき設定している ■②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である	達成状況：実績値(f)(人) 1,588　達成率(%)(f/b×100) 113.43	●①目標値達成 ○②目標値未達成 ＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞ 魅力的なイベントの企画により多くの参加者があったため。	○要 ●不要
(2)事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減：事業費(c)(千円) 3,862　事業費削減額(d)(千円) △165 事業費削減率(%) △4.46	実施予定の対策：□①国・県助成制度活用　□⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 ■②現有体制での対応　□⑥受益者負担 □③維持管理費の削減策の実施　□⑦その他 □④民間委託 ＜削減の内容＞	実施状況：実績値(g)(千円) 3,734　対事業費(%)(g/c)×100 96.69 ＜超過理由等＞ 効果的な物品の再利用等によりコストを削減した。	○①想定事業費未満 ●②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過 事業費の削減対策について：●①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞	○要 ●不要
(3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？（目標対費用）	目標値対事業費(e) 36.25　単位：人　費用単位：10万円	計算方法：●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ○②複数年度の指標：(目標値－現況値)×費用単位／事業費	達成状況：実績値(h) 42.53　対目標値(%)(h/e)×100 117.32	●①目標値以上 ○②目標値と同程度 ○③目標値以下 ＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞ 魅力的なイベントの企画により多くの参加者があったため。	○要 ●不要

３．事後評価

●現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

評価	評価コメント	改善策及び展開方向
	多様な教育普及事業により多くの市民に科学への関心を高めることができると考えられるため、今後も現状通り推進していく。	

様式第３号

事務事業評価表（平成31年度）

事業コード	1437	課コード	1604	会計種別	一般会計	予算の種類	□政策　■経常　□なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業		実施計画への位置づけ	○有　○無
		個別事業	常設展の充実		
	②部課名	生涯学習部・鳥の博物館			
	③事業主体	●市　○その他（　）		④対象地区	□我孫子　□天王台　□湖北　□新木　□布佐　■全市
	⑤事業期間	平成16年度　～		⑥担当職員数	2 人　（換算人数　0.2 人）
	⑦事業費（人件費含む）	総事業費	0 千円	当該(開始)年度	（当　初）4,413 千円　（うち人件費　1,760 千円）
					（変更後）4,463 千円　（うち人件費　1,760 千円）
	⑧施策の位置づけ	施策コード	51103	重点プロジェクトへの位置づけ	重点なし
	基本計画地区別計画への位置づけ	●有　○無	部門別計画への位置づけ	（計画名）	社会教育推進計画
(2)目的	施策目的・展開方向	学習する場の充実を図るため、公民館や図書館、鳥の博物館、白樺文学館などの施設の充実や、学習の拠点施設の整備を計画的に進めるとともに、学校施設など既存施設の有効活用を推進し、身近な場所で学習ができるようにします。また、湖北地区図書館の整備については、湖北台地区に立地し、老朽化への対応が急が		事業目的	鳥の科学と地域の自然に対する関心を高め、理解を深め、地域への愛着を育むことができるような生涯学習、社会教育の場として、多くに市民に活用してもらう。
(3)事業内容	内　容	常設展示は、博物館最大の情報提供の場と位置付け、鳥を観察する科学的な視点を示し、この視点から地域の鳥や自然を見直し、人が持続的に安心・安全にくらすための知恵を探ることを意図した展示構成となっている。多様な鳥の実物標本を見やすく分かりやすく展示し、来館者のさまざまな探究心に幅広く対応できるようしている。		当該年度執行計画	常設展示見学者が既存の標本展示の潜在的価値を再発見できるように、市民スタッフ研修などを通じて、展示交流活動を一層推進する。デジタルサイネージやパンフレット、ホームページの内容充実に努める。館内の収蔵システムの見直しを図り、継続した収集保存を可能にする体制作りを進める。
				当該年度活動結果指標	来館者数　単位：人　想定値 37,000　実績値 32,580

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該年度	常設展の内容を少しずつ更新し、魅力のある展示構成にする。	間接	来館者数	人	32,580	37,000
令和 2年度	常設展の内容を少しずつ更新し、魅力のある展示構成にする。	間接	来館者数	人		39,000
令和 3年度	常設展の内容を少しずつ更新し、魅力のある展示構成にする。	間接	来館者数	人		40,000

(7)事業実施上の課題と対応	代替案検討
開館後２８年を経て、科学の進歩や展示技術の発展により、常設展示の内容や展示手法が最新のものから遅れつつある。これまで蓄積した情報や収集した標本資料を活用した展示内容のアップデートを図るとともに、リニューアル計画を進める。	○有　●無

(8)施行事項　実施内容　費　用

平成30年度 政策	内　容	金額(千円)	平成31年度 政策	内　容	予算額(千円)	決算額(千円)	令和 2年度 政策	内　容	金額(千円)	令和 3年度 政策	内　容	金額(千円)
	（経常）			（経常）				（経常）			（経常）	
	嘱託職員報酬	1,100		嘱託職員報酬	1,100	1,100		嘱託職員報酬	1,100		嘱託職員報酬	1,100
	嘱託職員社会保険料	139		嘱託職員社会保険料	215	160		嘱託職員社会保険料	167		嘱託職員社会保険料	167
	嘱託職員雇用保険料	12		嘱託職員雇用保険料	17	14		嘱託職員雇用保険料	13		嘱託職員雇用保険料	13
	嘱託職員費用弁償	43		嘱託職員費用弁償	43	42		嘱託職員費用弁償	45		嘱託職員費用弁償	45
	市民スタッフ報償費	200		市民スタッフ報償費	195	147		市民スタッフ報償費	195		市民スタッフ報償費	195
	消耗品	150		消耗品	148	148		消耗品	148		消耗品	148
	印刷製本費	448		印刷製本費	319	264		印刷製本費	319		印刷製本費	319
	修繕料	100		修繕料	137	137		修繕料	137		修繕料	137
	その他保険料	42		その他保険料	42	42		その他保険料	42		その他保険料	42
	標本借上料	400		標本借上料	400	400		標本借上料	400		標本借上料	400
	手数料	75		手数料	75	76		手数料	75		手数料	75
				備品購入費（フクロウカメラ）	12	14						
予算(決算)額	合　計	2,709		合　計	2,703	2,544		合　計	2,641		合　計	2,641

(9)財源内訳	平成30年度	平成31年度		令和 2年度	令和 3年度
国庫支出金	補助率 0 %	補助率 0 %	0	補助率 0 %	補助率 0 %
県支出金	補助率 0 %	補助率 0 %	0	補助率 0 %	補助率 0 %
起債	充当率 0 %	充当率 0 %	0	充当率 0 %	充当率 0 %
一般財源	2,709	2,703	2,544	2,641	2,641
その他の財源	□特会 □受益 □基金 □その他	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	□特会 □受益 □基金 □その他

(10)人件費等	平成30年度	平成31年度		令和 2年度	令和 3年度
換算人数(人)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
正職員人件費	1,760	1,760	1,760	1,760	1,760
嘱託職員報酬額	1,294	1,314	1,314	1,314	1,314
臨時職員賃金額	0	0	0	0	0
事業費(予算(決算)額＋正職員人件費)	4,469	4,463	4,304	4,401	4,401
(11)単位費用（事業費／活動結果指標）	0.12千円／人	0.12千円／人	0.13		

２．事業の評価(DO+CHECK)

評価項目		事　前　評　価		事　後　評　価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））		改善検討
必要性	(1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	開館後２８年経過し、科学の進歩や展示技術の発展により、展示内容や展示手法が古くなり、一部の展示の魅力が低下しているため、展示のリニューアルが望まれる。コストのかかるリニューアルは、長期的な計画のもとに順次進めるが、展示情報のアップデートは待った無しであり、映像やちらしの設置など、あらゆる工夫により実現することが必要であり、これを実現できなければ博物館としての信頼性が問われる。		○①事前確認での想定どおり ●②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞ 市民スタッフによる展示交流、地域性を重視した企画展の開催、施設の安全性の向上を図ることに努めた。		●要 ○不要
	(2)市が実施する必要性はあるか？（市実施の必要性）	○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない （理由）□法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他	＜その他の内容＞	□①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった ■②市が主導で進めなければ実効性がなかった ■③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した □⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他 ＜その他の内容＞	＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞ 学芸員がスタッフをコーディネートし、館内案内などを通じて、来館者と博物館をつなぐ展示交流活動を推進した。	○要 ●不要
		●②自治体である市が推進すべきである （理由）□市が主導で進めることにより実効性が得られる ■市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される □市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他	＜その他の内容＞			
参加・協働の工夫	市民の参加や市民との協働を工夫しているか？（体制づくり）	参加・協働の内容： ○①事業計画時に市民の参画有り ●②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 ＜その他の内容＞	工夫の具体的な内容： 来館者が展示に興味を持ち、理解が進むように市民スタッフに展示交流員として、館内ガイドや利用案内を行なってもらう。	実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容） 来館者が博物館の展示に親しみを持つことが出来るように、市民スタッフとの協議で展示解説などの交流活動を実施した。	参加・協働の程度・内容： ○①当初期待した以上 ●②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞	○要 ●不要
環境への配慮	環境に配慮して事業を進めているか？	配慮の視点： □①自然環境を生かしている □②生き物と共存している ■③手賀沼を意識している □④環境負荷低減に貢献している □⑤その他 ＜その他の内容＞	取組む内容： 鳥を通じて手賀沼をはじめとする身近な自然への関心、理解、愛着を育むことができるような情報を提供する。	実施した具体的な内容： 我孫子の自然環境への理解を深めることができるように、展示や様々な教育普及活動を通じて、鳥類など手賀沼周辺い生息する生物に関する情報を提供した。	環境への配慮： ●①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞	○ 要 ● 不要

効率性

	現況値(a)(人)	目標値(b)(人)	目標値の妥当性のチェック	達成状況 実績値(f)(人)	達成率(%)(f/b×100)		改善検討
(1)目標設定は適切か？	32,580	37,000	□①客観的なデータ・事実に基づき設定している ■②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である	32,580	88.05	○①目標値達成 ●②目標値未達成 ＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞ ＰＲ不足、展示手法に変化がない。	○要 ●不要

(2)事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減 事業費(c)(千円)	事業費削減額(d)(千円)	事業費削減率(%)	実施予定の対策	実施状況 実績値(g)(千円)	対事業費(%)(g/c)×100		事業費の削減対策について	改善検討
	4,463	6	0.13	□①国・県助成制度活用 ■②現有体制での対応 □③維持管理費の削減策の実施 □④民間委託 □⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 □⑥受益者負担 □⑦その他 ＜削減の内容＞	4,304	96.44	＜超過理由等＞	○想定事業費未満 ●②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過	●①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞	○要 ●不要

(3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？（目標対費用）	目標値対事業費(e)	単位	費用単位	計算方法	達成状況 実績値(h)	対目標値(%)(h/e)×100			改善検討
	829.04	人	10万円	●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ○②複数年度の指標：(目標値－現況値)×費用単位／事業費	756.97	91.31	○①目標値以上 ●②目標値と同程度 ○③目標値以下	＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞	○要 ●不要

３．事後評価

●現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

評価	評価コメント	改善策及び展開方向
	博物館として、常設展示において、鳥や手賀沼、自然環境に関心を高めてもらうためにも引き続き事業を推進していく。	

様式第３号

事務事業評価表（平成31年度）

事業コード	1438	課コード	1604	会計種別	一般会計	予算の種類	□政策　■経常　□なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業		実施計画への位置づけ	○有　●無
		個別事業	企画展の実施		
	②部課名	生涯学習部・鳥の博物館			
	③事業主体	●市　○その他（　）		④対象地区	□我孫子　□天王台　□湖北　□新木　□布佐　■全市
	⑤事業期間	～		⑥担当職員数	2 人　（換算人数　0.2 人）
	⑦事業費（人件費含む）	総事業費	0 千円	当該(開始)年度	（当　初）4,167 千円　（うち人件費　1,760 千円）
					（変更後）4,230 千円　（うち人件費　1,760 千円）
	⑧施策の位置づけ	施策コード	51103	重点プロジェクトへの位置づけ	重点なし
	基本計画地区別計画への位置づけ	○有　●無	部門別計画への位置づけ	（計画名）	社会教育推進計画
(2)目的	施策目的・展開方向	学習する場の充実を図るため、公民館や図書館、鳥の博物館、白樺文学館などの施設の充実や、学習の拠点施設の整備を計画的に進めるとともに、学校施設など既存施設の有効活用を推進し、身近な場所で学習ができるようにします。また、湖北地区図書館の整備については、湖北台地区に立地し、老朽化への対応が急が		事業目的	鳥を中心として、地域の自然と生き物について興味を持ち、理解を深め、愛着を感じることができるような企画展を実施する。
(3)事業内容	内　容	自然環境の保全に関心を持ち、理解を深めることができるように、鳥や自然環境に関する季節性や話題性に即したテーマを選び、年３回程度企画展を実施する。合わせて博物館ボランティアや博物館友の会会員の活動成果の発表機会として利用できるように、コーディネートする。		当該年度執行計画	年間を通して３回の企画展を開催する。会期はそれぞれ４ヶ月程度。
				当該年度活動結果指標	来館者数　単位：人　想定値 37,000　実績値 32,580

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該年度	子どもから大人まで幅広い年齢層の市民に、話題性、速報性のある企画展を実施し、鳥や様々な生物を通して環境を考える機会を提供する。	直接	来館者数	人	32,580	37,000
令和 2年度	子どもから大人まで幅広い年齢層の市民に、話題性、速報性のある企画展を実施し、鳥や様々な生物を通して環境を考える機会を提供する。	直接	来館者数	人		39,000
令和 3年度	子どもから大人まで幅広い年齢層の市民に、話題性、速報性のある企画展を実施し、鳥や様々な生物をとおして環境を考える機会を提供する。	直接	来館者数	人		40,000

(7)事業実施上の課題と対応		代替案検討	○有　●無

(8)施行事項

	平成30年度 内容	金額(千円)	平成31年度 内容	予算額(千円)	決算額(千円)	令和 2年度 内容	金額(千円)	令和 3年度 内容	金額(千円)
実施内容 費用	嘱託職員報酬	1,400	嘱託職員報酬	1,400	1,400	嘱託職員報酬	1,400	嘱託職員報酬	1,400
	嘱託職員社会保険料	177	嘱託職員社会保険料	273	203	嘱託職員社会保険料	213	嘱託職員社会保険料	213
	嘱託職員雇用保険料	16	嘱託職員雇用保険料	21	18	嘱託職員雇用保険料	16	嘱託職員雇用保険料	16
	嘱託職員費用弁償	55	嘱託職員費用弁償	55	54	嘱託職員費用弁償	57	嘱託職員費用弁償	57
	市民スタッフ報償費	99	市民スタッフ報償費	84	71	市民スタッフ報償費	84	市民スタッフ報償費	84
	消耗品	350	消耗品	340	340	消耗品	340	消耗品	340
	企画展委託料	100	企画展委託料	100	97	企画展委託料	100	企画展委託料	100
	印刷製本費	177	印刷製本費	197	180	印刷製本費	197	印刷製本費	197
予算(決算)額	合　計	2,374	合　計	2,470	2,363	合　計	2,407	合　計	2,407

(9)財源内訳

	平成30年度		平成31年度			令和 2年度		令和 3年度	
国庫支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
県支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
起債	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0	0	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0
一般財源		2,374		2,470	2,363		2,407		2,407
その他の財源	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0

(10)人件費等

	平成30年度	平成31年度		令和 2年度	令和 3年度
換算人数(人)	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2
正職員人件費	2,640	1,760	1,760	1,760	1,760
嘱託職員報酬額	1,648	1,672	1,672	1,672	1,672
臨時職員賃金額	0	0	0	0	0
事業費(予算(決算)額＋正職員人件費)	5,014	4,230	4,123	4,167	4,167
(11)単位費用（事業費／活動結果指標）	0.14千円／人	0.11千円／人	0.13		

２．事業の評価(DO+CHECK)

評価項目	事　前　評　価	事　後　評　価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））	改善検討
必要性 (1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	博物館が持っている学習資源を最大限に活用し、市民に情報提供する必要がある。「鳥の科学」、「地域の自然」、「人と鳥とのかかわり」という三つのテーマに沿って魅力ある企画展を実施することで、展示に変化を持たせて何度も足を運んでもらえるような博物館を目指す。	●①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞ 我孫子の地域性を重視した企画展や今までの観察活動をまとめた企画展を開催し、来館者に見てもらうことが出来た。	○要 ●不要
必要性 (2)市が実施する必要性はあるか？（市実施の必要性）	○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない （理由）□法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他 ＜その他の内容＞ ●②自治体である市が推進すべきである （理由）□市が主導で進めることにより実効性が得られる ■市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される □市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他 ＜その他の内容＞	□①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった ■②市が主導で進めなければ実効性がなかった □③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した □⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他 ＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞ 職員（学芸員）が中心となることで、市民スタッフや友の会会員の協力を得て、企画展を実施することができた。 ＜その他の内容＞	○要 ●不要
参加・協働の工夫 市民の参加や市民との協働を工夫しているか？（体制づくり）	参加・協働の内容： ○①事業計画時に市民の参画有り ●②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 ＜その他の内容＞ 工夫の具体的な内容：鳥の博物館友の会との共催の企画展の実施、市民スタッフによる企画展の展示案内や展示交流を実施する。	実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容）：企画展の準備段階から、市民スタッフや友の会会員の協力を得て実施した。 参加・協働の程度・内容： ○①当初期待した以上 ●②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞	○要 ●不要
環境への配慮 環境に配慮して事業を進めているか？	配慮の視点： □①自然環境を生かしている □②生き物と共存している ■③手賀沼を意識している □④環境負荷低減に貢献している □⑤その他 ＜その他の内容＞ 取組む内容：手賀沼周辺の鳥や自然をテーマとした企画展を実施する。	実施した具体的な内容：これまで実施してきた自然観察記録をもとに、我孫子の生きものを紹介することが出来た。 環境への配慮： ●①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞	○ 要 ● 不要

効率性

(1)目標設定は適切か？

現況値(a)(人)	目標値(b)(人)	目標値の妥当性のチェック	達成状況 実績値(f)(人)	達成率(%)(f/b×100)	
32,580	37,000	□①客観的なデータ・事実に基づき設定している ■②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である	32,580	88.05	○①目標値達成 ●②目標値未達成 ＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞ 感染症の拡大防止に伴い、臨時休館としたことから来館者が減った。

○要 ●不要

(2)事業費削減の工夫をしているか？

対策実施による事業費削減 事業費(c)(千円)	事業費削減額(d)(千円)	事業費削減率(%)	実施予定の対策	実施状況 実績値(g)(千円)	対事業費(%)(g/c)×100		事業費の削減対策について
4,230	784	15.64	□①国・県助成制度活用 ■②現有体制での対応 □③維持管理費の削減策の実施 □④民間委託 □⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 □⑥受益者負担 □⑦その他 ＜削減の内容＞	4,123	97.47	＜超過理由等＞	○①想定事業費未満 ●②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過 ●①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞

○要 ●不要

(3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？（目標対費用）

目標値対事業費(e)	単位	費用単位	計算方法	達成状況 実績値(h)	対目標値(%)(h/e)×100		
874.7	人	10万円	●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ○②複数年度の指標：(目標値－現況値)×費用単位／事業費	790.2	90.34	○①目標値以上 ●②目標値と同程度 ○③目標値以下	＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞

○要 ●不要

３．事後評価

●現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

評価	評価コメント	改善策及び展開方向
	生涯学習実施の推進・充実のためにも重要な事業であり、今後も現状通り推進していく。	

様式第３号

事務事業評価表（平成31年度）

事業コード	1439	課コード	1604	会計種別	一般会計	予算の種類	□政策　■経常　□なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業		実施計画への位置づけ	○有　○無
		個別事業	ミュージアムショップの充実		
	②部課名	生涯学習部・鳥の博物館			
	③事業主体	●市　○その他（　）		④対象地区	□我孫子　□天王台　□湖北　□新木　□布佐　■全市
	⑤事業期間	平成16年度　～		⑥担当職員数	1 人　（換算人数　0.2 人）
	⑦事業費（人件費含む）	総事業費	7,941 千円	当該(開始)年度	（当　初）7,379 千円　（うち人件費　1,760 千円）
					（変更後）7,385 千円　（うち人件費　1,760 千円）
	⑧施策の位置づけ	施策コード	11203	重点プロジェクトへの位置づけ	重点２
	基本計画地区別計画への位置づけ	○有　●無	部門別計画への位置づけ	（計画名）	生涯学習推進計画
(2)目的	施策目的・展開方向	多くの人が手賀沼の魅力に気づき、その価値を認識してもらえるように、ジャパンバードフェスティバルやＥｎｊｏｙ手賀沼！、手賀沼花火大会などの手賀沼にかかわるイベントや手賀沼周辺の自然観察会、農業体験などを引き続き実施します。また、広報や市ウェブサイト、ＳＮＳ、パンフレットなどの活用やパブリシ		事業目的	来館者に来館記念として学習教材、記念品などのミュージアムグッズを購入していただくことで博物館のメッセージを持ち帰ってもらい、博物館のＰＲとリピーターの確保に繋げる。
(3)事業内容	内　容	博物館を見学した思い出を残すことができるように、鳥の博物館らしい魅力あるグッズを販売する。来館者の意見や要望を反映し、安全で楽しく遊べる教育的なものや来館記念としての付加価値の高いオリジナルなものをより安価に提供する。		当該年度執行計画	通年随時
				当該年度活動結果指標	ミュージアムショップ売上高　単位　千円　想定値 3,960　実績値 3,405

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該年度	安全で楽しく鳥の博物館ならではの教育的グッズを販売し、より多くの来館者に満足してもらう。	直接	売上高	円	3,405	3,960
令和 2年度	安全で楽しく鳥の博物館ならではの教育的グッズを販売し、より多くの来館者に満足してもらう。	直接	売上高	円		4,010
令和 3年度	安全で楽しく鳥の博物館ならではの教育的グッズを販売し、より多くの来館者に満足してもらう。	直接	売上高	円		4,060

(7)事業実施上の課題と対応	代替案検討
通信販売の要望に対して、市の会計規則上、これに応えるのが難しい。ショップの商品仕入れの年度予算が決まっているので、人気商品が出たタイミングに、その商品を追加して仕入れることが難しい面があるが、補正予算で対応したい。	○有　●無

(8)施行事項

実施内容 費用	平成30年度 政策	内容	金額(千円)	平成31年度 政策	内容	予算額(千円)	決算額(千円)	令和 2年度 政策	内容	金額(千円)	令和 3年度 政策	内容	金額(千円)
		（経常）			（経常）				（経常）			（経常）	
		臨時職員雇用保険	7		臨時職員雇用保険	7	7		臨時職員雇用保険	7		臨時職員雇用保険	7
		臨時職員賃金	2,349		臨時職員賃金	2,440	2,359		臨時職員賃金	2,440		臨時職員賃金	2,440
		消耗品	2,360		消耗品	2,360	2,267		消耗品	2,360		消耗品	2,360
		手数料	12		手数料	12	11		手数料	12		手数料	12
		嘱託職員報酬	150		嘱託職員報酬	150	150		嘱託職員報酬	150		嘱託職員報酬	150
		嘱託職員社会保険料	19		嘱託職員社会保険料	29	22		嘱託職員社会保険料	23		嘱託職員社会保険料	23
		嘱託職員雇用保険料	2		嘱託職員雇用保険料	2	2		嘱託職員雇用保険料	2		嘱託職員雇用保険料	2
		嘱託職員費用弁償	6		嘱託職員費用弁償	6	6		嘱託職員費用弁償	6		嘱託職員費用弁償	6
		委託料	660		委託料	619	614		委託料	619		委託料	619
		印刷製本費	879										
予算(決算)額		合　計	6,444		合　計	5,625	5,438		合　計	5,619		合　計	5,619

(9)財源内訳

	平成30年度		平成31年度			令和 2年度		令和 3年度	
国庫支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
県支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
起債	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0	0	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0
一般財源		2,533		2,593	2,033		2,587		2,587
その他の財源	□特会 □受益 □基金 ■その他	3,911	□特会 □受益 □基金 ■その他	3,032	3,405	□特会 □受益 □基金 □その他	3,032	□特会 □受益 □基金 □その他	3,032

(10)人件費等

	平成30年度	平成31年度		令和 2年度	令和 3年度
換算人数(人)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
正職員人件費	1,760	1,760	1,760	1,760	1,760
嘱託職員報酬額	177	179	179	179	179
臨時職員賃金額	2,356	2,448	2,448	2,448	2,448
事業費(予算(決算)額＋正職員人件費)	8,204	7,385	7,198	7,379	7,379
(11)単位費用（事業費／活動結果指標）	2.07千円／千円	1.86千円／千円	2.11		

２．事業の評価(DO+CHECK)

必要性

(1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)

事前評価	事後評価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））	改善検討
博物館は教育施設であると同時に、楽しい体験ができなければならない。 ミュージアムショップで、鳥の博物館ならではのオリジナルグッズを購入することは、楽しい体験である。	●①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞ オリジナルグッズや鳥関連グッズを常に見直しし、充実させることによりリピーターを増やすきっかけとなった。	○要 ●不要

(2)市が実施する必要性はあるか？（市実施の必要性）

事前評価		事後評価		改善検討
○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない （理由）□法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他	＜その他の内容＞	□①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった □②市が主導で進めなければ実効性がなかった ■③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した □⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他	＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞ 企画展など博物館の活動に合わせたグッズを開発、仕入れを行うことにより、来館者の記念になるようなグッズを展開することが出来る。	○要 ●不要
●②自治体である市が推進すべきである （理由）□市が主導で進めることにより実効性が得られる ■市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される □市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他	＜その他の内容＞	＜その他の内容＞		

参加・協働の工夫

市民の参加や市民との協働を工夫しているか？（体制づくり）

参加・協働の内容	工夫の具体的な内容	実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容）	参加・協働の程度・内容	改善検討
○①事業計画時に市民の参画有り ●②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 ＜その他の内容＞	来館者の意見を反映した品揃えを考慮し、販売している。	商品開発については、来館者のリクエスト、市民スタッフの意見を取り上げた。	○①当初期待した以上 ●②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞	●要 ○不要

環境への配慮

環境に配慮して事業を進めているか？

配慮の視点	取組む内容	実施した具体的な内容	環境への配慮	改善検討
□①自然環境を生かしている □②生き物と共存している □③手賀沼を意識している ■④環境負荷低減に貢献している □⑤その他 ＜その他の内容＞	できるだけ自然素材のグッズを選び、販売している。	できるかぎり自然素材を意識したグッズを選ぶ努力をした。	●①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞	○ 要 ● 不要

効率性

(1)目標設定は適切か？

現況値(a)(円)	目標値(b)(円)	目標値の妥当性のチェック	達成状況 実績値(f)(円)	達成率(%)(f/b×100)		改善検討
3,405	3,960	□①客観的なデータ・事実に基づき設定している ■②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である	3,405	85.98	○①目標値達成 ●②目標値未達成 ＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞ 新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時閉館をしたため。	○要 ●不要

(2)事業費削減の工夫をしているか？

対策実施による事業費削減 事業費(c)(千円)	事業費削減額(d)(千円)	事業費削減率(%)	実施予定の対策	実施状況 実績値(g)(千円)	対事業費(%)(g/c)×100		事業費の削減対策について	改善検討
7,385	819	9.98	□①国・県助成制度活用 ■②現有体制での対応 □③維持管理費の削減策の実施 □④民間委託 □⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 □⑥受益者負担 □⑦その他 ＜削減の内容＞	7,198	97.47	○①想定事業費未満 ●②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過 ＜超過理由等＞	●①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞	○要 ●不要

(3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？（目標対費用）

目標値対事業費(e)	単位	費用単位	計算方法	達成状況 実績値(h)	対目標値(%)(h/e)×100			改善検討
53.62	円	10万円	●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ○②複数年度の指標：(目標値－現況値)×費用単位／事業費	47.3	88.21	○①目標値以上 ○②目標値と同程度 ●③目標値以下	＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞ 新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時閉館をしたため。	○要 ●不要

３．事後評価

●現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

評価 評価コメント	改善策及び展開方向
ミュージアムショップは、来館者が記念としてグッズを購入する楽しみがあり、また、当博物館の魅力アップにつながることから、今後も引き続き推進していく。	

様式第３号

事務事業評価表（平成31年度）

事業コード	1440	課コード	1604	会計種別	一般会計	予算の種類	□政策　■経常　□なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業		実施計画への位置づけ	○有　○無
		個別事業	博物館施設設備の維持管理		
	②部課名	生涯学習部・鳥の博物館			
	③事業主体	●市　○その他（　）		④対象地区	□我孫子　□天王台　□湖北　□新木　□布佐　■全市
	⑤事業期間	平成20年度　～		⑥担当職員数	4 人　（換算人数　0.23 人）
	⑦事業費（人件費含む）	総事業費	0 千円	当該(開始)年度	（当　初）2,370 千円　（うち人件費　2,024 千円）
					（変更後）千円　（うち人件費　千円）
	⑧施策の位置づけ	施策コード	51103	重点プロジェクトへの位置づけ	重点なし
	基本計画地区別計画への位置づけ	○有　●無	部門別計画への位置づけ	（計画名）	生涯学習推進計画
(2)目的	施策目的・展開方向	学習する場の充実を図るため、公民館や図書館、鳥の博物館、白樺文学館などの施設の充実や、学習の拠点施設の整備を計画的に進めるとともに、学校施設など既存施設の有効活用を推進し、身近な場所で学習ができるようにします。また、湖北地区図書館の整備については、湖北台地区に立地し、老朽化への対応が急が		事業目的	博物館施設を来館者が安全に恒久的に利用できるように、経年変化により劣化した施設設備を補修し機能を維持する。省エネに配慮した設備に転換していく。
(3)事業内容	内　容	経年劣化した建物各所及び故障箇所の修繕等		当該年度執行計画	学芸員室及び多目的ホールの非常灯修繕 防火扉非常電源バッテリー交換
				当該年度活動結果指標	入館者数　単位：人　想定値 37,000　実績値 32,580

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該年度	博物館利用者数の増加	間接	入館者数	人	32,580	37,000
令和 2年度	博物館利用者数の増加	間接	入館者数	人		39,000
令和 3年度	博物館利用者数の増加	間接	入館者数	人		40,000

(7)事業実施上の課題と対応		代替案検討	○有　●無

(8)施行事項

	平成30年度		平成31年度			令和 2年度		令和 3年度	
実施内容	内　容	金額(千円)	内　容	予算額(千円)	決算額(千円)	内　容	金額(千円)	内　容	金額(千円)
	自動ドア駆動装置の交換修繕	569	学芸員室・多目的ホール非常灯修繕	259	195	看板ターポリン印刷・取付（３回）	261	看板ターポリン印刷・取付（３回）	261
			防火扉非常電源バッテリー交換	87	81	＊駐車場自立看板設置業務委託	198		
			1階男子トイレ配管つまり修繕		7	＊看板ターポリン印刷・取付（２回）	174		
			トイレタンクレバーハンドル修繕		8	＊博物館入口柱用看板取付枠設置委託	62		
予算(決算)額	合　計	569	合　計	346	291	合　計	695	合　計	261

(9)財源内訳

	平成30年度		平成31年度			令和 2年度		令和 3年度	
国庫支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
県支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
起債	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0	0	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0
一般財源		569		346	291		695		261
その他の財源	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0

(10)人件費等

	平成30年度	平成31年度		令和 2年度	令和 3年度
換算人数(人)	0.33	0.23	0.23	0.23	0.23
正職員人件費	2,904	2,024	2,024	2,024	2,024
嘱託職員報酬額	0	0	0	0	0
臨時職員賃金額	0	0	0	0	0
事業費(予算(決算)額＋正職員人件費)	3,473	2,370	2,315	2,719	2,285
(11)単位費用（事業費／活動結果指標）	0.1千円／人	0.06千円／人	0.07		

２．事業の評価(DO+CHECK)

評価項目	事　前　評　価	事　後　評　価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））	改善検討
必要性 (1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	平成2年に開館した博物館は非常灯、トイレなどの交換修繕が必要である。施設を耐用年数まで活用するためには適切な維持管理・更新・改修が欠かせない。	●①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞ 来館者が安全・快適に利用できるようになった。	○要 ●不要
必要性 (2)市が実施する必要性はあるか？(市実施の必要性)	●①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない （理由）□法令等で市が実施することが定められている ■提供主体が市しかない □その他 ＜その他の内容＞ ○②自治体である市が推進すべきである （理由）□市が主導で進めることにより実効性が得られる □市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される □市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他 ＜その他の内容＞	■①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった □②市が主導で進めなければ実効性がなかった □③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した □⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他 ＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞ 市の施設としての博物館設備等の維持管理が必要。 ＜その他の内容＞	○要 ●不要
参加・協働の工夫 市民の参加や市民との協働を工夫しているか？(体制づくり)	参加・協働の内容： ○①事業計画時に市民の参画有り ○②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ●⑥その他 工夫の具体的な内容： ＜その他の内容＞ 市が公共施設の維持管理として、実施する事業である。	実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容）： 市の施設としての設備等の維持管理であるため、市が責任を持って予算を執行する必要がある。 参加・協働の程度・内容： ○①当初期待した以上 ●②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞	○要 ●不要
環境への配慮 環境に配慮して事業を進めているか？	配慮の視点： □①自然環境を生かしている □②生き物と共存している □③手賀沼を意識している □④環境負荷低減に貢献している ■⑤その他 取組む内容： ＜その他の内容＞ できるだけ環境に配慮した製品の採用や、振動・騒音の低減等に努めている。	実施した具体的な内容： 老朽化した施設設備を修繕した 環境への配慮： ●①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞	○ 要 ● 不要

効率性

	現況値(a)(人)	目標値(b)(人)	目標値の妥当性のチェック	達成状況：実績値(f)(人)	達成率(%)(f/b×100)	達成状況
(1)目標設定は適切か？	32,580	37,000	□①客観的なデータ・事実に基づき設定している ■②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である	32,580	88.05	○①目標値達成 ●②目標値未達成 ＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞ 施設展示が開館当時のままであることから、リピーターが減少した。

(2)事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減：事業費(c)(千円)	事業費削減額(d)(千円)	事業費削減率(%)	実施予定の対策	実施状況：実績値(g)(千円)	対事業費(%)(g/c)×100	実施状況
	2,370	1,103	31.76	□①国・県助成制度活用 □②現有体制での対応 □③維持管理費の削減策の実施 □④民間委託 □⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 □⑥受益者負担 □⑦その他 ＜削減の内容＞	2,315	97.68	○①想定事業費未満 ●②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過 ＜超過理由等＞

事業費の削減対策について	
	●①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞

(3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？(目標対費用)	目標値対事業費(e)	単位	費用単位	計算方法	達成状況：実績値(h)	対目標値(%)(h/e)×100	達成状況
	1,561.18	人	10万円	●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ○②複数年度の指標：(目標値－現況値)×費用単位／事業費	1,407.34	90.15	○①目標値以上 ●②目標値と同程度 ○③目標値以下 ＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞

	改善検討
効率性 (1)	●要 ○不要
効率性 (2)	○要 ●不要
効率性 (3)	○要 ●不要

３．事後評価

●現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

評価	評価コメント	改善策及び展開方向
	施設の適切に管理し、長寿命化を図るためにも修繕は必要である。	

様式第３号

事務事業評価表（平成31年度）

事業コード	1441	課コード	1604	会計種別	一般会計	予算の種類	□政策　■経常　□なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業		実施計画への位置づけ	○有　○無
		個別事業	友の会・市民スタッフの活動支援		
	②部課名	生涯学習部・鳥の博物館			
	③事業主体	●市　○その他（　）		④対象地区	□我孫子　□天王台　□湖北　□新木　□布佐　■全市
	⑤事業期間	平成17年度　～		⑥担当職員数	2 人　（換算人数　0.15 人）
	⑦事業費（人件費含む）	総事業費	2,322 千円	当該(開始)年度	（当　初）2,284 千円　（うち人件費　1,320 千円）
					（変更後）2,319 千円　（うち人件費　1,320 千円）
	⑧施策の位置づけ	施策コード	51103	重点プロジェクトへの位置づけ	重点なし
	基本計画地区別計画への位置づけ	○有　●無	部門別計画への位置づけ	（計画名）	生涯学習推進計画
(2)目的	施策目的・展開方向	学習する場の充実を図るため、公民館や図書館、鳥の博物館、白樺文学館などの施設の充実や、学習の拠点施設の整備を計画的に進めるとともに、学校施設など既存施設の有効活用を推進し、身近な場所で学習ができるようにします。また、湖北地区図書館の整備については、湖北台地区に立地し、老朽化への対応が急が		事業目的	生涯学習社会を実現するため、学習の拠点となる施設や体制を整備し、幅広い学習機会を提供していく。
(3)事業内容	内　容	「友の会・市民スタッフルーム」を友の会会員、市民スタッフに開放し、いつでも自由に活用できるようにしているが、友の会会員については自らの生涯学習をさらに展開し、市民スタッフについては環境学習、体験学習のリーダーとして必要な実体験や学習をより一層習得してもらう。		当該年度執行計画	通年　随時
				当該年度活動結果指標	友の会・市民スタッフの登録人数　単位：人　想定値 390　実績値 321

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該年度	博物館と協働で、体験学習、環境学習を積極的に実施する。	直接	友の会・市民スタッフの登録人数	人	321	390
令和 2年度	物館と協働で、体験学習、環境学習を積極的に実施する。	直接	友の会・市民スタッフの登録人数	人		400
令和 3年度	博物館の運営方針を理解し、スタッフは体験学習、環境学習の講師として自主的に事業を展開する。	直接	友の会・市民スタッフの登録人数	人		410

(7)事業実施上の課題と対応：　代替案検討：○有　●無

(8)施行事項

	平成30年度		平成31年度			令和 2年度		令和 3年度	
実施内容	内　容	金額(千円)	内　容	予算額(千円)	決算額(千円)	内　容	金額(千円)	内　容	金額(千円)
	市民と館の協働事業のコーディネート		市民と館の協働事業のコーディネート			市民と館の協働事業のコーディネート		市民と館の協働事業のコーディネート	
	嘱託職員報酬	800	嘱託職員報酬	800	799	嘱託職員報酬	800	嘱託職員報酬	800
	嘱託職員社会保険	101	嘱託職員社会保険	156	116	嘱託職員社会保険	122	嘱託職員社会保険	122
	嘱託職員雇用保険	9	嘱託職員雇用保険	12	10	嘱託職員雇用保険	9	嘱託職員雇用保険	9
	嘱託職員費用弁済	32	嘱託職員費用弁償	31	31	嘱託職員費用弁償	33	嘱託職員費用弁償	33
費　用 予算(決算)額	合　計	942	合　計	999	956	合　計	964	合　計	964

(9)財源内訳	平成30年度		平成31年度			令和 2年度		令和 3年度	
国庫支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
県支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
起債	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0	0	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0
一般財源		942		999	956		964		964
その他の財源	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0

(10)人件費等	平成30年度	平成31年度		令和 2年度	令和 3年度
換算人数(人)	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
正職員人件費	1,320	1,320	1,320	1,320	1,320
嘱託職員報酬額	942	955	955	955	955
臨時職員賃金額	0	0	0	0	0
事業費(予算(決算)額＋正職員人件費)	2,262	2,319	2,276	2,284	2,284
(11)単位費用（事業費／活動結果指標）	6.11千円／人	5.95千円／人	7.09		

２．事業の評価(DO+CHECK)

評価項目	事　前　評　価	事　後　評　価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））	改善検討
必要性 (1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	鳥の博物館の設置意義を推進するためには、博物館スタッフのマンパワーのみならず、多くの市民の協力なくして発展させることはできず、市民スタッフや友の会会員の協力は欠くことのできない要素である。博物館の運営方針に沿った形で、市民スタッフや友の会会員の協力を得るためには、環境学習に関する情報の提供や活動の拠点の提供などの支援が必要である。	●①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞ 博物館の運営補助や利用を推進する活動は今後も重要であると考えられるため。	○要 ●不要
必要性 (2)市が実施する必要性はあるか？（市実施の必要性）	○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない （理由）□法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他 ＜その他の内容＞ ●②自治体である市が推進すべきである （理由）■市が主導で進めることにより実効性が得られる □市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される □市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他 ＜その他の内容＞	□①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった □②市が主導で進めなければ実効性がなかった ■③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した □⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他 ＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞ 我孫子市の市民スタッフ制度を利用し、博物館ボランティアを効果的に組織することができた。 ＜その他の内容＞	○要 ●不要
参加・協働の工夫 市民の参加や市民との協働を工夫しているか？（体制づくり）	参加・協働の内容： ○①事業計画時に市民の参画有り ○②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ●⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 ＜その他の内容＞ 工夫の具体的な内容：主催者（博物館）の一員としての市民スタッフ及び博物館活動への協力に積極的な市民としての友の会会員と頻繁に情報交換し、事業計画から事業の実施まで協働で行なっている。	実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容）：多様な教育普及事業を市民スタッフとの共同で実施し、友の会委員に参加していただいた。 参加・協働の程度・内容： ○①当初期待した以上 ●②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞	○要 ●不要
環境への配慮 環境に配慮して事業を進めているか？	配慮の視点： ■①自然環境を生かしている □②生き物と共存している ■③手賀沼を意識している □④環境負荷低減に貢献している □⑤その他 ＜その他の内容＞ 取組む内容：主催者（博物館）の一員としての市民スタッフ及び博物館活動への協力に積極的な市民としての友の会会員と頻繁に情報交換し、事業計画から事業の実施まで協働で行なっている。	実施した具体的な内容：博物館の教育普及事業への参加を通じて、市民スタッフ自らの環境保全への意識を高めることができた。 環境への配慮： ●①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞	○ 要 ● 不要

効率性

	現況値(a)(人)	目標値(b)(人)	目標値の妥当性のチェック	達成状況：実績値(f)(人)	達成率(%)(f/b×100)		
(1)目標設定は適切か？	321	390	□①客観的なデータ・事実に基づき設定している ■②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である	321	82.31	○①目標値達成 ●②目標値未達成 ＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞ 友の会・市民スタッフともに員数の減少があったため。	○要 ●不要

(2)事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減：事業費(c)(千円)	事業費削減額(d)(千円)	事業費削減率(%)	実施予定の対策	実施状況：実績値(g)(千円)	対事業費(%)(g/c)×100		事業費の削減対策について	
	2,319	△57	△2.52	□①国・県助成制度活用 ■②現有体制での対応 □③維持管理費の削減策の実施 □④民間委託 □⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 □⑥受益者負担 □⑦その他 ＜削減の内容＞	2,276	98.15	○①想定事業費未満 ●②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過 ＜超過理由等＞ 友の会・市民スタッフともに員数の減少があったため。	●①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞	○要 ●不要

(3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？（目標対費用）	目標値対事業費(e)	単位	費用単位	計算方法	達成状況：実績値(h)	対目標値(%)(h/e)×100		
	16.82	人	10万円	●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ○②複数年度の指標：(目標値－現況値)×費用単位／事業費	14.1	83.83	○①目標値以上 ○②目標値と同程度 ●③目標値以下 ＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞ 友の会・市民スタッフともに員数の減少があったため。	○要 ●不要

３．事後評価

●現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

評価	評価コメント	改善策及び展開方向
	博物館活動の発展のためには、市民スタッフや友の会会員の協力が欠かせないため、今後も現状通り推進していく。	

様式第３号

事務事業評価表（平成31年度）

事業コード	1442	課コード	1604	会計種別	一般会計	予算の種類	□政策　■経常　□なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業		実施計画への位置づけ	○有　●無
		個別事業	鳥類生息状況調査		
	②部課名	生涯学習部・鳥の博物館			
	③事業主体	●市　○その他（　）		④対象地区	□我孫子　□天王台　□湖北　□新木　□布佐　■全市
	⑤事業期間	～		⑥担当職員数	2 人（換算人数 0.2 人）
	⑦事業費（人件費含む）	総事業費	0 千円	当該(開始)年度	（当　初）2,348 千円（うち人件費 1,760 千円）
					（変更後）2,368 千円（うち人件費 1,760 千円）
	⑧施策の位置づけ	施策コード	51201	重点プロジェクトへの位置づけ	重点なし
	基本計画地区別計画への位置づけ	●有　○無	部門別計画への位置づけ	（計画名）	生涯学習推進計画
(2)目的	施策目的・展開方向	市民の学習活動を活発にするため、市が行う生涯学習関連事業の体系化や事業内容の充実、情報の共有化などを進めて、生涯学習振興に関する行政施策を総合的に推進します。また、学習に関する情報提供、相談体制の充実を図るとともに、他の自治体や市民団体、大学、研究機関、企業などとの連携を強化するなど、市		事業目的	鳥類の生息状況の調査を実施し、我孫子市周辺の自然環境の変化をモニタリングするとともに、その結果をだれでも利用できるように調査研究報告等で報告する。
(3)事業内容	内　容	鳥類を生物指標にして、我孫子の自然環境の特性や変化を客観的に把握できるように、市内を代表する環境からサンプリングした調査対象地域の定期的なセンサスを実施する。結果は、博物館の調査研究報告等で公表し、誰でも閲覧、利用できるようにする。		当該年度執行計画	調査回数
				当該年度活動結果指標	年間調査回数：2調査地×1回/月×12月=24回/年　単位：回　想定値 24　実績値 14

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該年度	手賀沼周辺、我孫子市内の谷津田の鳥類調査から環境変化を検証する。	直接	調査回数	回	14	24
令和 2年度	手賀沼周辺、我孫子市内の谷津田の鳥類調査から環境変化を検証する。	直接	調査回数	回		24
令和 3年度	手賀沼周辺、我孫子市内の谷津田の鳥類調査から環境変化を検証する。	直接	調査回数			24
(7)事業実施上の課題と対応	調査人員に限度があるので、市民スタッフによる調査サークルを立ち上げて、充分な調査人員を確保する。	代替案検討	○有　●無			

(8)施行事項

	平成30年度		平成31年度			令和 2年度		令和 3年度	
	政策 内　容	金額(千円)	政策 内　容	予算額(千円)	決算額(千円)	政策 内　容	金額(千円)	政策 内　容	金額(千円)
実施内容 費用	（経常）		（経常）			（経常）		（経常）	
	嘱託職員報酬	422	嘱託職員報酬	423	423	嘱託職員報酬	423	嘱託職員報酬	423
	嘱託職員社会保険	54	嘱託職員社会保険	83	61	嘱託職員社会保険	64	嘱託職員社会保険	64
	嘱託職員雇用保険	5	嘱託職員雇用保険	6	5	嘱託職員雇用保険	5	嘱託職員雇用保険	5
	嘱託職員費用弁償	17	嘱託職員費用弁償	17	16	嘱託職員費用弁償	17	嘱託職員費用弁償	17
	市民スタッフ報償費	9	市民スタッフ報償費	7	7	市民スタッフ報償費	7	市民スタッフ報償費	7
	消耗品	80	消耗品	72	72	消耗品	72	消耗品	72
予算(決算)額	合　計	587	合　計	608	584	合　計	588	合　計	588

(9)財源内訳

	平成30年度		平成31年度			令和 2年度		令和 3年度	
国庫支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
県支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
起債	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0	0	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0
一般財源		587		608	584		588		588
その他の財源	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0

(10)人件費等

	平成30年度	平成31年度		令和 2年度	令和 3年度
換算人数(人)	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
正職員人件費	1,760	1,760	1,760	1,760	1,760
嘱託職員報酬額	498	505	505	505	505
臨時職員賃金額	0	0	0	0	0
事業費(予算(決算)額＋正職員人件費)	2,347	2,368	2,344	2,348	2,348
(11)単位費用（事業費／活動結果指標）	97.79千円／回	98.67千円／回	167.43		

２．事業の評価(DO+CHECK)

評価項目	事　前　評　価	事　後　評　価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））	改善検討
必要性 (1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	近年、手賀沼の水鳥が減少しており、鳥類を対象とした生息状況の調査は、人間自身の生活環境を保全する上でも重要な生物指標となる。	●①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞ 手賀沼の環境の変化を鳥類を指標としてモニタリングすることは、引き続き重要であると考えられるため。	○要 ●不要
必要性 (2)市が実施する必要性はあるか？（市実施の必要性）	○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない （理由）□法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他 ＜その他の内容＞ ●②自治体である市が推進すべきである （理由）□市が主導で進めることにより実効性が得られる ■市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される □市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他 ＜その他の内容＞	□①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった ■②市が主導で進めなければ実効性がなかった □③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した ■⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他 ＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞ 専門知識を持った職員が実施することにより、より精度の高い調査を行うことができた。 ＜その他の内容＞	○要 ●不要
参加・協働の工夫 市民の参加や市民との協働を工夫しているか？（体制づくり）	参加・協働の内容： ○①事業計画時に市民の参画有り ●②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 ＜その他の内容＞ 工夫の具体的な内容：オオバン生息調査やオオヨシキリさえずり地点調査は、市民スタッフと協働して行なっている。	実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容）：年に1回ずつ実施しているオオバンおよびオオヨシキリの生息状況調査は市民スタッフ、博物館友の会、我孫子野鳥を守る会などの市民と共同で実施した。 参加・協働の程度・内容： ○①当初期待した以上 ●②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞	○要 ●不要
環境への配慮 環境に配慮して事業を進めているか？	配慮の視点： ■①自然環境を生かしている □②生き物と共存している ■③手賀沼を意識している □④環境負荷低減に貢献している □⑤その他 ＜その他の内容＞ 取組む内容：我孫子市の環境の現状を把握するための基礎データになるような鳥類生息状況調査を実施する。	実施した具体的な内容：調査時には、調査員によって鳥類の行動に悪影響を与えないように実施した。 環境への配慮： ●①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞	○ 要 ● 不要

効率性

	現況値(a)(回)	目標値(b)(回)	目標値の妥当性のチェック	達成状況 実績値(f)(回)	達成率(%)(f/b×100)		
(1)目標設定は適切か？	14	24	■①客観的なデータ・事実に基づき設定している □②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である	14	58.33	○①目標値達成 ●②目標値未達成 ＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞ 学芸員が減員し、これまでに実施した岡発戸の谷津田での調査を行うことができなかったため。	○要 ●不要

(2)事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減：事業費(c)(千円)	事業費削減額(d)(千円)	事業費削減率(%)	実施予定の対策	実施状況 実績値(g)(千円)	対事業費(%)(g/c)×100		事業費の削減対策について	
	2,368	△21	△0.89	□①国・県助成制度活用 ■②現有体制での対応 □③維持管理費の削減策の実施 □④民間委託 □⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 □⑥受益者負担 □⑦その他 ＜削減の内容＞	2,344	98.99	○①想定事業費未満 ●②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過 ＜超過理由等＞ 調査回数が減少したため。	●①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞	○要 ●不要

(3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？（目標対費用）	目標値対事業費(e)	単位	費用単位	計算方法	達成状況 実績値(h)	対目標値(%)(h/e)×100		
	1.01	回	10万円	●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ○②複数年度の指標：(目標値－現況値)×費用単位／事業費	0.6	59.41	○①目標値以上 ○②目標値と同程度 ●③目標値以下 ＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞ 調査回数が減少したため。	○要 ●不要

３．事後評価

●現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

評価	評価コメント	改善策及び展開方向
	手賀沼の鳥類の調査研究によって教育普及を行うための基盤的な活動であり、今後も現状通り推進していく。	

様式第３号

事務事業評価表（平成31年度）

事業コード	1443	課コード	1604	会計種別	一般会計	予算の種類	□政策　■経常　□なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業		実施計画への位置づけ	○有　●無
		個別事業	鳥類標本・資料の収集		
	②部課名	生涯学習部・鳥の博物館			
	③事業主体	●市　○その他（　）		④対象地区	□我孫子　□天王台　□湖北　□新木　□布佐　■全市
	⑤事業期間	～		⑥担当職員数	2 人　（換算人数　0.15 人）
	⑦事業費（人件費含む）	総事業費	0 千円	当該(開始)年度	（当　初）3,257 千円　（うち人件費　1,320 千円） （変更後）千円　（うち人件費　千円）
	⑧施策の位置づけ	施策コード	51201	重点プロジェクトへの位置づけ	重点なし
	基本計画地区別計画への位置づけ	●有　○無	部門別計画への位置づけ	（計画名）	社会教育推進計画
(2)目的	施策目的・展開方向	市民の学習活動を活発にするため、市が行う生涯学習関連事業の体系化や事業内容の充実、情報の共有化などを進めて、生涯学習振興に関する行政施策を総合的に推進します。また、学習に関する情報提供、相談体制の充実を図るとともに、他の自治体や市民団体、大学、研究機関、企業などとの連携を強化するなど、市		事業目的	博物館事業の基盤となる鳥類標本を主とした資料の収集と記録、また永続的に保存できるような管理と効果的な利用の推進。
(3)事業内容	内　容	国内唯一の鳥類専門の単科博物館として、日本産鳥類の全種の雌雄成幼剥製標本、全種の骨格標本のコレクションを、国内外の協力者のネットワークを通じて収集し、だれでも利用できるようにデータベースを構築し、公開する。また市民の共有財産として永続的に維持できるように管理する。		当該年度執行計画	○資料受入・登録・管理：通年　随時 ○標本作製・登録：通年　随時
				当該年度活動結果指標	収蔵標本数　単位：点　想定値 2,900　実績値 2,813

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該年度	未所蔵の分類群（科・種）の鳥類斃死鳥資料を収集し、剥製や骨格として標本化し、多くの市民の利用に供する。	直接	製作標本数	点	2,813	2,900
令和 2年度	未所蔵の分類群（科・種）の鳥類斃死鳥資料を収集し、剥製や骨格として標本化し、多くの市民の利用に供する。	直接	製作標本数	点		3,000
令和 3年度	未所蔵の分類群（科・種）の鳥類斃死鳥資料を収集し、剥製や骨格として標本化し、多くの市民の利用に供する。	直接	製作標本数	点		3,100

(7)事業実施上の課題と対応	収取した冷凍資料を着実に標本化する体制づくりが課題で、市民スタッフの教育などに取り組んでいる。	代替案検討	○有　●無

(8)施行事項

	平成30年度		平成31年度			令和 2年度		令和 3年度	
	政策 内　容	金額(千円)	政策 内　容	予算額(千円)	決算額(千円)	政策 内　容	金額(千円)	政策 内　容	金額(千円)
実施内容 費　用	（経常） 消耗品費 154 通信運搬費 50 手数料（C02ボンベ充填） 21 標本製作委託料 1,373		（経常） 消耗品費 139 通信運搬費 50 手数料（C02ボンベ充填） 21 標本製作委託料 1,373 備品購入費（冷蔵庫） 354		139 27 0 1,360 346	（経常） 消耗品費 139 通信運搬費 50 手数料（C02ボンベ充填） 21 標本製作委託料 1,373		（経常） 消耗品費 139 通信運搬費 50 手数料（C02ボンベ充填） 21 標本製作委託料 1,373	
予算(決算)額	合　計	1,598	合　計	1,937	1,872	合　計	1,583	合　計	1,583
(9)財源内訳 国庫支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
県支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
起債	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0	0	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0
一般財源		1,598		1,937	1,872		1,583		1,583
その他の財源	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0
(10)人件費等 換算人数(人)	0.15		0.15		0.15	0.15		0.15	
正職員人件費	1,320		1,320		1,320	1,320		1,320	
嘱託職員報酬額	0		0		0	0		0	
臨時職員賃金額	0		0		0	0		0	
事業費(予算(決算)額＋正職員人件費)	2,918		3,257		3,192	2,903		2,903	
(11)単位費用（事業費／活動結果指標）	1.06千円／点		1.12千円／点		1.13				

２．事業の評価(DO+CHECK)

評価項目		事　前　評　価	事　後　評　価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））　改善検討
必要性	(1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	博物館の使命の一つに資料の収集と永続的な保管があげられる。全国で初めての鳥類専門の博物館である当館は、鳥類および関連資料の収集に努め、市民の研究および生涯学習の教材として充実をはかることが求められている。	●①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞ 時代とともに変化する鳥類の分布情報や形態の変化の記録等を実物として次世代に引き継ぐため、鳥類標本の収集は引き続き必要であるため。 改善検討：○要 ●不要
必要性	(2)市が実施する必要性はあるか？（市実施の必要性）	○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない （理由）□法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他 ＜その他の内容＞ ●②自治体である市が推進すべきである （理由）□市が主導で進めることにより実効性が得られる ■市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される □市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他 ＜その他の内容＞	□①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった ■②市が主導で進めなければ実効性がなかった □③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した □⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他 ＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞ 専門知識を持つ職員が標本を収集・管理することで、コレクションの充実と適切な管理を行うことが可能になるため。 ＜その他の内容＞ 改善検討：○要 ●不要
参加・協働の工夫	市民の参加や市民との協働を工夫しているか？（体制づくり）	参加・協働の内容：○①事業計画時に市民の参画有り ●②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 工夫の具体的な内容：標本資料の多くは、市民からの寄贈協力によるものである。 ＜その他の内容＞	実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容）：市民からの標本資料の寄贈、市民による標本製作ボランティア。 参加・協働の程度・内容：○①当初期待した以上 ●②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞ 改善検討：○要 ●不要
環境への配慮	環境に配慮して事業を進めているか？	配慮の視点：■①自然環境を生かしている ■②生き物と共存している ■③手賀沼を意識している □④環境負荷低減に貢献している □⑤その他 取組む内容：鳥体・巣・卵などの標本を教育普及活動に活用することで、地域の自然や生き物に向ける機会を市民に提供する。 ＜その他の内容＞	実施した具体的な内容：事故等によって死亡した鳥類の収集を行っており、生体の採集は行っていない。 環境への配慮：●①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞ 改善検討：○ 要 ● 不要
効率性	(1)目標設定は適切か？	現況値(a)(点) 2,813 目標値(b)(点) 2,900 目標値の妥当性のチェック：□①客観的なデータ・事実に基づき設定している ■②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である	達成状況：実績値(f)(点) 2,813　達成率(%)(f/b×100) 97 ●①目標値達成 ○②目標値未達成 ＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞ 委託による標本製作をおおむね予定通り進められた。 改善検討：○要 ●不要
効率性	(2)事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減：事業費(c)(千円) 3,257　事業費削減額(d)(千円) △339 事業費削減率(%) △11.62 実施予定の対策：□①国・県助成制度活用　□⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 ■②現有体制での対応　□⑥受益者負担 □③維持管理費の削減策の実施　□⑦その他 □④民間委託 ＜削減の内容＞	実施状況：実績値(g)(千円) 3,192　対事業費(%)(g/c)×100 98 ○①想定事業費未満 ●②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過 ＜超過理由等＞ 備品として冷凍庫を購入したため。 事業費の削減対策について：●①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞ 改善検討：○要 ●不要
効率性	(3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？（目標対費用）	目標値対事業費(e) 89.04 単位：点　費用単位：10万円 計算方法：●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ○②複数年度の指標：（目標値－現況値）×費用単位／事業費	達成状況：実績値(h) 88.13　対目標値(%)(h/e)×100 98.98 ○①目標値以上 ●②目標値と同程度 ○③目標値以下 ＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞ 委託による標本製作をおおむね予定通り進められた。 改善検討：○要 ●不要

３．事後評価

●現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

評価	評価コメント	改善策及び展開方向
	より充実した展示や情報提供を行っていくため、現状通り推進していく。	

様式第３号

事務事業評価表（平成31年度）

事業コード	1444	課コード	1604	会計種別	一般会計	予算の種類	□政策　■経常　□なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業		実施計画への位置づけ	○有　○無
		個別事業	図書・映像資料の整理とデータ作成		
	②部課名	生涯学習部・鳥の博物館			
	③事業主体	●市　○その他（　）		④対象地区	□我孫子　□天王台　□湖北　□新木　□布佐　■全市
	⑤事業期間	平成17年度　～		⑥担当職員数	2 人　（換算人数　0.1 人）
	⑦事業費（人件費含む）	総事業費	0 千円	当該(開始)年度	（当　初）2,079 千円　（うち人件費　880 千円） （変更後）千円　（うち人件費　千円）
	⑧施策の位置づけ	施策コード	51201	重点プロジェクトへの位置づけ	重点なし
	基本計画地区別計画への位置づけ	●有　○無	部門別計画への位置づけ	（計画名）	社会教育推進計画
(2)目的	施策目的・展開方向	市民の学習活動を活発にするため、市が行う生涯学習関連事業の体系化や事業内容の充実、情報の共有化などを進めて、生涯学習振興に関する行政施策を総合的に推進します。また、学習に関する情報提供、相談体制の充実を図るとともに、他の自治体や市民団体、大学、研究機関、企業などとの連携を強化するなど、市		事業目的	鳥類および地域の自然を理解するために必要な情報を提供できるような図書を収集し、市民の問いに対してスムーズにリファレンスできるようなデータベースを構築する。
(3)事業内容	内　容	鳥類学や身近な自然に関する博物館運営に有効な図書を選定し、来館者が利用しやすいように閲覧コーナーを整理する。また、鳥類の生態や我孫子の自然を記録した画像・映像資料も収集整理し、図書とともにデータベース化する。		当該年度執行計画	通年　随時、月10回程度データ入力、雑誌図書等のPDF化の実施、PDFデータベースの作成
				当該年度活動結果指標	書籍蔵書数　単位：件　想定値 4,050　実績値 4,506

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該年度	鳥に関する資料を収集し、レファレンスワークを充実させる。	直接	書籍蔵書数	冊	4,506	4,050
令和 2年度	鳥に関する資料を収集し、レファレンスワークを充実させる。	直接	書籍蔵書数	冊		4,100
令和 3年度	鳥に関する資料を収集し、レファレンスワークを充実させる。	直接	書籍蔵書数	冊		4,150

(7)事業実施上の課題と対応		代替案検討	○有　●無

(8)施行事項

	平成30年度		平成31年度			令和 2年度		令和 3年度	
実施内容	政策	内　容	金額(千円)	政策	内　容	予算額(千円)	決算額(千円)	政策	内　容	金額(千円)	政策	内　容	金額(千円)
費　用		（経常） 臨時職員雇用保険 臨時職員賃金 消耗品費	3 993 213		（経常） 臨時職員雇用保険 臨時職員賃金 消耗品費	3 993 203	3 993 203		（経常） 臨時職員雇用保険 臨時職員賃金 消耗品費	3 993 203		（経常） 臨時職員雇用保険 臨時職員賃金 消耗品費	3 993 203
予算(決算)額		合　計	1,209		合　計	1,199	1,199		合　計	1,199		合　計	1,199

(9)財源内訳

	平成30年度	平成31年度		令和 2年度	令和 3年度
国庫支出金	補助率 0 % 0	補助率 0 % 0	0	補助率 0 % 0	補助率 0 % 0
県支出金	補助率 0 % 0	補助率 0 % 0	0	補助率 0 % 0	補助率 0 % 0
起債	充当率 0 % 0	充当率 0 % 0	0	充当率 0 % 0	充当率 0 % 0
一般財源	1,209	1,199	1,199	1,199	1,199
その他の財源	□特会 □受益 □基金 □その他 0	□特会 □受益 □基金 □その他 0	0	□特会 □受益 □基金 □その他 0	□特会 □受益 □基金 □その他 0

(10)人件費等

	平成30年度	平成31年度		令和 2年度	令和 3年度
換算人数(人)	0.15	0.1	0.1	0.1	0.1
正職員人件費	1,320	880	880	880	880
嘱託職員報酬額	0	0	0	0	0
臨時職員賃金額	996	996	996	996	996
事業費(予算(決算)額＋正職員人件費)	2,529	2,079	2,079	2,079	2,079
(11)単位費用（事業費／活動結果指標）	0.64千円／件	0.51千円／件	0.46		

２．事業の評価(DO+CHECK)

評価項目	事　前　評　価	事　後　評　価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））	改善検討
必要性 (1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	図書閲覧コーナーの図書資料を充実させ、鳥類や自然に関する情報を提供する。また、博物館の収蔵する蔵書のリファレンスサービスをスムーズに行うためには、資料のデータベース化を整備する必要がある。	●①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞ 市民からの多様な質問への回答、展示の作成、調査研究のために図書資料の収集やデータベースの作成は引き続き重要である。	○要 ●不要
必要性 (2)市が実施する必要性はあるか？(市実施の必要性)	○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない （理由）□法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他 ＜その他の内容＞ ●②自治体である市が推進すべきである （理由）□市が主導で進めることにより実効性が得られる ■市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される □市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他 ＜その他の内容＞	□①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった □②市が主導で進めなければ実効性がなかった □③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した ■⑤サービス水準が確保された ■⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他 ＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞ 専門知識を持つ職員が図書の収集にあたることで、リファレンスを充実することができた。 ＜その他の内容＞	○要 ●不要
参加・協働の工夫 市民の参加や市民との協働を工夫しているか？(体制づくり)	参加・協働の内容： ○①事業計画時に市民の参画有り ●②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 ＜その他の内容＞ 工夫の具体的な内容：図書資料の購入に際しては、来館者や市民スタッフ、友の会会員等の要望を参考にしている。	実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容）：来館者からの意見や質問内容の傾向をもとに、購入する図書の検討を行った。 参加・協働の程度・内容： ○①当初期待した以上 ●②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞	○要 ●不要
環境への配慮 環境に配慮して事業を進めているか？	配慮の視点： ■①自然環境を生かしている ■②生き物と共存している ■③手賀沼を意識している □④環境負荷低減に貢献している □⑤その他 ＜その他の内容＞ 取組む内容：鳥をはじめとする自然の仕組みを理解するために役立つ図書資料を収集し、市民が利用できるようにする。	実施した具体的な内容：環境保全のための教育普及・啓発に役立つ資料を収集した。 環境への配慮： ●①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞	○ 要 ● 不要

効率性

	現況値(a)(冊)	目標値(b)(冊)	目標値の妥当性のチェック	達成状況：実績値(f)(冊)	達成率(%)(f/b×100)		
(1)目標設定は適切か？	4,506	4,050	■①客観的なデータ・事実に基づき設定している □②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である	4,506	111.26	●①目標値達成 ○②目標値未達成 ＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞ 予定通り図書の購入や資料収集を進めることができた。	○要 ●不要

(2)事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減：事業費(c)(千円)	事業費削減額(d)(千円)	事業費削減率(%)	実施予定の対策	実施状況：実績値(g)(千円)	対事業費(%)(g/c)×100		事業費の削減対策について	
	2,079	450	17.79	□①国・県助成制度活用 ■②現有体制での対応 □③維持管理費の削減策の実施 □④民間委託 □⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 □⑥受益者負担 □⑦その他 ＜削減の内容＞	2,079	100	○①想定事業費未満 ●②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過 ＜超過理由等＞ 消耗品費のうち、図書購入費に使う額が限られていたため。	●①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞	○要 ●不要

(3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？(目標対費用)	目標値対事業費(e)	単位	費用単位	計算方法	達成状況：実績値(h)	対目標値(%)(h/e)×100			
	194.81	冊	10万円	●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ○②複数年度の指標：(目標値－現況値)×費用単位／事業費	216.74	111.26	●①目標値以上 ○②目標値と同程度 ○③目標値以下	＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞ 予定通り図書の購入や資料収集を進めることができた。	○要 ●不要

３．事後評価

●現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

評価	評価コメント	改善策及び展開方向
	博物館の教育普及・調査研究活動の基盤として、今後も現状通り推進していく。	

様式第３号

事務事業評価表（平成31年度）

事業コード	1886	課コード	1604	会計種別	一般会計	予算の種類	□政策　□経常　■なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業		実施計画への位置づけ	○有　○無
		個別事業	常設展示リニューアル		
	②部課名	生涯学習部・鳥の博物館			
	③事業主体	●市　○その他（　）		④対象地区	□我孫子　□天王台　□湖北　□新木　□布佐　□全市
	⑤事業期間	平成30年度　～　令和 4年度		⑥担当職員数	3 人　（換算人数　0.06 人）
	⑦事業費（人件費含む）	総事業費	168,070 千円	当該(開始)年度	（当　初）528 千円　（うち人件費　528 千円）
					（変更後）千円　（うち人件費　千円）
	⑧施策の位置づけ	施策コード	51103	重点プロジェクトへの位置づけ	重点なし
	基本計画地区別計画への位置づけ	○有　●無	部門別計画への位置づけ	（計画名）	生涯学習施設の整備・充実
(2)目的	施策目的・展開方向	学習する場の充実を図るため、公民館や図書館、鳥の博物館、白樺文学館などの施設の充実や、学習の拠点施設の整備を計画的に進めるとともに、学校施設など既存施設の有効活用を推進し、身近な場所で学習ができるようにします。また、湖北地区図書館の整備については、湖北台地区に立地し、老朽化への対応が急が		事業目的	開館後28年以上を経た鳥の博物館の展示をリニューアルし、魅力的な展示により、質の高い情報を提供できるようにする。
(3)事業内容	内　容	手賀沼の鳥コーナー、鳥の起源と進化、鳥の飛翔のコーナーなど、科学の進歩や調査の進展により、内容が陳腐化した展示をリニューアルし、魅力的で、質の高い情報を提供できるようにする。また、これまで収集した標本をより多く展示し公開できるようなスペースを確保し、展示の魅力を高める。		当該年度執行計画	展示リニューアルのための資料等の調査
				当該年度活動結果指標	文献等資料数　単位：点　想定値 90　実績値 86

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該年度	展示リニューアルするにあたって、有効な資料を収集する。	間接	文献等資料数	点	86	90
令和 2年度	展示計画を作成するにあたって、有効な資料を収集する。	間接	文献等資料数	点		100
令和 3年度	展示リニューアルを完成させる。	間接	文献等資料数	点		100

(7)事業実施上の課題と対応	独自の財源確保の検討が必要。	代替案検討	○有　●無

		平成30年度		平成31年度			令和 2年度		令和 3年度	
		政策 内　容	金額(千円)	政策 内　容	予算額(千円)	決算額(千円)	政策 内　容	金額(千円)	政策 内　容	金額(千円)
(8)施行事項	実施内容	資料調査	0	資料調査	0	0	資料調査	0	資料調査	0
							基本計画作成	0	基本設計・実施設計(長寿命計画による	0
	費　用									
	予算(決算)額	合　計	0	合　計	0	0	合　計	0	合　計	0
(9)財源内訳	国庫支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
	県支出金	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0	0	補助率 0 %	0	補助率 0 %	0
	起債	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0	0	充当率 0 %	0	充当率 0 %	0
	一般財源		0		0	0		0		0
	その他の財源	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0	□特会 □受益 □基金 □その他	0
(10)人件費等	換算人数(人)		0.06		0.06	0.06		0.06		0.06
	正職員人件費		528		528	528		528		528
	嘱託職員報酬額		0		0	0		0		0
	臨時職員賃金額		0		0	0		0		0
事業費(予算(決算)額＋正職員人件費)			528		528	528		528		528
(11)単位費用（事業費／活動結果指標）		6.6千円／点		5.87千円／点		6.14				

２．事業の評価(DO+CHECK)

評価項目		事　前　評　価	事　後　評　価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））	改善検討
必要性	(1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	開館後28年以上経た鳥の博物館の展示は、内容的にも、展示手法的にも陳腐化し、質の高い情報を魅力的に提供することが困難であり、これを解消するには展示をリニューアルすることが最も効果的である。	●①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞ 開館後29年を経た展示は内容・展示手法的に古いものとなり、最新の情報を効果的に伝えることが困難となっていることから、展示のリニューアルが必要と考えられるため。	○要 ●不要
	(2)市が実施する必要性はあるか？(市実施の必要性)	○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない (理由) □法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他 ＜その他の内容＞ ●②自治体である市が推進すべきである (理由) ■市が主導で進めることにより実効性が得られる □市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される □市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他 ＜その他の内容＞ 第三次総合計画の第10期実施計画の策定に当たって、検討される事業であり、市の博物館がすすめることで、生態系サービスに配慮しながら、手賀沼という環境資源を活用することができる。	□①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった □②市が主導で進めなければ実効性がなかった ■③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した □⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他 ＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞ 我孫子市の文化拠点整備計画の一部として本事業を推進した。 ＜その他の内容＞	○要 ●不要
参加・協働の工夫	市民の参加や市民との協働を工夫しているか？(体制づくり)	参加・協働の内容：●①事業計画時に市民の参画有り ○②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 ＜その他の内容＞ 工夫の具体的な内容：日常的に寄せられる来館者、友の会、市民スタッフの意見、及び識者や市民代表で組織する常設展示リニューアル検討委員会（仮称）での意見を反映させた計画づくりを行なう。	実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容）：鳥の博物館市民スタッフとリニューアル内容に関する意見交換を行った。 参加・協働の程度・内容：○①当初期待した以上 ●②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞	○要 ●不要
環境への配慮	環境に配慮して事業を進めているか？	配慮の視点：■①自然環境を生かしている ■②生き物と共存している ■③手賀沼を意識している □④環境負荷低減に貢献している □⑤その他 ＜その他の内容＞ 取組む内容：身近な鳥をきっかけに、手賀沼をはじめとする地域の自然に関心を持ち、理解を深め、愛着を持つという環境学習活動を推進するうえで、効果の高い展示にリニューアルする。	実施した具体的な内容：手賀沼の環境保全に関する展示をリニューアル後も引き続き盛り込むことを検討している。 環境への配慮：●①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞	○ 要 ● 不要
効率性	(1)目標設定は適切か？	現況値(a)(点)：86 目標値(b)(点)：90 目標値の妥当性のチェック：■①客観的なデータ・事実に基づき設定している □②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である	達成状況：実績値(f)(点) 86　達成率(%)(f/b×100) 95.56 ●①目標値達成 ○②目標値未達成 ＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞ 予定通り資料の収集を行った。	○要 ●不要
	(2)事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減：事業費(c)(千円) 528　事業費削減額(d)(千円) 0　事業費削減率(%) 0 実施予定の対策：□①国・県助成制度活用　□⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 ■②現有体制での対応　□⑥受益者負担 □③維持管理費の削減策の実施　□⑦その他 □④民間委託 ＜削減の内容＞	実施状況：実績値(g)(千円) 528　対事業費(%)(g/c)×100 100 ○①想定事業費未満 ●②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過 ＜超過理由等＞ 事業費の削減対策について：●①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞	○要 ●不要
	(3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？(目標対費用)	目標値対事業費(e)：0.76　単位：点　費用単位：10万円 計算方法：○①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ●②複数年度の指標：(目標値－現況値)×費用単位／事業費	達成状況：実績値(h) 0　対目標値(%)(h/e)×100 0 ○①目標値以上 ○②目標値と同程度 ●③目標値以下 ＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞ 財源確保が困難である。	○要 ●不要

３．事後評価

●現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

評価	評価コメント	改善策及び展開方向
	最新の情報や展示手法を取り入れた常設展示のリニューアルは、鳥の博物館の魅力を維持するうえで重要な事業であることから、実施する方向で検討しつつ実施していく。	